事業報告書及びその付属明細書

２０１６年度

自　２０１６年4月1日　至　２０１７年3月３１日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会（ＪＡＦＳ）のめざすもの

Ⅰ．基本理念（Vision）

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、 以って各自の生命（いのち）の価値を高める。

Ⅱ．基本課題（Mission）

１．アジア及び世界の開発途上地域の困っている人々を助ける。
（特に、基本的生存条件が確保できない人々への生活支援を最優先する）

２．国際社会に必要なボランティア活動の育成推進

Ⅲ．基本目標（Goal）

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命（いのち）の役割を果たす。

Ⅳ．基本活動（Program offered）

１．国際協力支援事業の推進

２．国際人的ネットワーク網の確立

３．日本における良き社会づくりの推進

目 次

事業報告				1
Ⅰ. 開発支援事業				
	A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給		7
	B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上		9
		2. 教育設備・環境整備		
		3. HIV/AIDS 子ども感染予防		
		4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援		
	C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット支援・能力開発		12
		2. 保健衛生指導・医療	(1)トイレ建設	
			(2)医療支援	
		3. 提携NGO運営助成		
	D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育		14
		2. 環境改善・国際グリーンスカウト		
		3. 再生可能エネルギー資源活用・普及		
	E. サイクル・エイド事業	1. サイクル・エイド		16
	ワークキャンプ・海外プロジェクト視察			18
Ⅱ. 国際交流事業				
	A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援		21
		2. 海外ボランティア研修制度		
	B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1)アジアネットワークセミナー	22
			(2)アジア・フレンドシップ夢基金	
			(3)アジア・ユースサミット	
		2. 国際体験交流(スタディ・ツアーなど)		23
	資料:海外提携団体AFSネットワーク			25
Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業				
	A. 災害等罹災者支援事業	1. 日本	(1)日本 東日本大震災	28
		2. フィリピン	(2)フィリピン台風ハイエン	
		3. ネパール	(3)ネパール中部地震	
Ⅳ. 普及啓発事業				
	A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1)JAFSチャリティーバザール	33
			(2)国際理解教育講座	
			(3)アジア文化理解講座	
			(4)インターンシッププログラム	34
			(5)法人関連プログラム	
			(6)関連プログラム/その他団体協力	
		2. 地区活動	(1)エリア幹事会・全体地区世話人会	35
			(2)地区世話人一覧	
			(3)第1エリア	36
			(4)第2エリア	
			(5)第3エリア	38
			(6)第4エリア	39
			(7)第5エリア	
			(8)第6エリア	
			(9)第7エリア	40
			(10)第8エリア	
			(11)第9、第10エリア	
		3. 広報	(1)アジアネット	41
			(2)ホームページ	42
		4. プロジェクト支援	各ファミリーグループ・支援会	42
		5. 関連市民活動	(1)関西ナショナル・トラスト協会	45
			(2)グリーンベイOSAKA	
			(3)日本を良くする会	46
	B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト運動)		(1)土と水と緑の学校	49
			(2)美山 土と水と緑の自然学校	
			(3)各部会活動	50
Ⅴ. 運営管理				
	A. 社員総会			51
	B. 役員一覧			
	C. 理事会			53
	D. 常置委員会			
	E. 立入検査			
事業報告の付属明細書				54

２０１６年度　事業報告

2016 年度は、ネパール地震の支援活動のさなか、4 月に熊本県に震度 7 の地震が襲い、その対応に追われた。支援者各位の迅速な対応と多くの現地ボランティアの皆様の協力により、災害初期から避難所運営支援、仮設団地の見まわり支援などの重要な時期において途切れることのない支援を行うことができた。全国からボランティアの方々に協力いただけたことは、被災者の方々への大きな励みになった。開発支援事業やその他の国内外の活動においても災害の影響は少なく、従来通り活動することができた。

さて、開発支援事業（公1）に関しては従来通り「水」、「子ども」、「貧困対策」、「環境」及び「サイクル・エイド」の 5 事業を個別報告にあるごとく実施することができた。

国際交流事業(公Ⅱ)に関しては、第 26 回アジア国際ネットワークセミナーをインドの IT 都市バンガロールにて実施することができ、それに伴いアジア夢基金を通したネットワーク活動の輪が広がった。また、アジア・ユースサミットから関連したプログラムやスタディツアーも引き続き実施され、充実した国際交流事業が展開できた。

災害等の罹災者支援事業（公Ⅲ）に関しては、上述した通り、熊本地震の被災者支援を始め、2015 年度から引き続きネパール中部地震への復興支援に取り組むことができた。また、2016 年 12 月末には、大型台風がフィリピンのカタンドゥアネス島を襲い、これまでの災害の経験により迅速な緊急支援（物資配布）ができた。

普及啓発活動（公Ⅳ）に関しては、本会の特徴である地域広報活動をより一層充実化するために、エリア幹事会、地域活動推進委員会が新たに設けられ、円滑な地域活動の強化となった。

運営に関しては、各事業に対して、理事会を中心とした各事業委員会が積極的に活動し、各事業後の課題に対する対応が取り組まれた一年であった。ガバナンス・コンプライアンスも引き続き強化された。

以下は、2016 年度の活動の詳細である。

Ⅰ．公益目的事業１　　開発支援事業

A.『水事業』－ 安全な飲料水供給を目指した井戸建設支援事業 －

1. 井戸・飲料水供給

2016 年度はアジア 7 カ国（インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の農村地域 30 ヵ所に飲料水のための井戸及びパイプライン 51 基を完成させることができ、安全な飲料水を含む、生活用水を確保することができた。気候変動にともなう水確保の手段を確立させていくことが今後の課題である。

B.『子ども事業』－ 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 －

1. 初等教育普及・向上事業

経済的貧困のために、教育の恩恵を受けることができない、もしくは教育を継続できない、子どもたちへ、初等教育の機会と継続への支援事業を行った。教育里親制度（教育資金の提供）を通じ昨年度同様、アジア 5 ヵ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の児童 489 名の教育支援を行なった。本年度も引き続き、ネパール地震の被災地域にて教育継続が困難になった子どもたちの支援に尽力した。

都市部における雇用機会の増加にともない、貧しい家庭に生まれた子どもたちの中途退学はあとをたたないでいる。持続的な雇用を得るためには教育が不可欠であるが、現場の力不足もあり、まだまだ理解を得るに至っていないのが課題である。

2. 教育設備・環境整備

2016 年度は、長年運営支援を行ってきたインドの日印友好学園 2 校の運営の安定化のための学校環境整備を支援した。学年増加に伴う教室の増設、現在の教育ニーズに対応するために映像を利用したクラス導入のための資機材の支援などを行った。その他、ネパールにおいては、地震の被害にあった学校と生徒の教育環境の充実化のための支援を実施した。新たな支援地であるモンゴルのゲル地区の保育園に関しては、設立運営に必要な部屋の改築、資機材・遊具の導入は支援し、無事設立することができた。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

引き続き、タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県の 2 県の HIV／AIDS の児童及びその家族 5 世帯の支援を行った。

4. 栄養改善とストリートおよび、スラムの子どもたちの保護・教育支援

(1) 栄養改善（ネパール）

タライ平野の低所得地域のピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒に、継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と、就学前クラスの子どもたちへの給食支援を実施した。栄養指導に関しては同校と共に、4 地域 7 小学校の児童や教師を対象に栄養知識の学習を再開し、その他小学校教師を目指す女子大学生への指導を実施した。

(2) ストリートおよび、スラムの子どもたち支援

2016 年度は、従来のフィリピン・マニラ市内から郊外へと強制移住させられた元路上生活の子どもたちに加えて、現在も路上生活を送らざるをえない子どもたちの支援を始め、約 19 世帯を支援することができた。新たに、マニラ市内のサンアンドレスに支援を行ない、子どもたちの教育継続の支援ができた。しかしながら、新たに要請のあったリザール州の貧困層の子どもの補習や教育継続のためのデイケアセンター設置に関しては、現地の諸事情により、延期し、2017 年度に実施することとなった。

インド、ナグプール県のチャイルドアカデミーの子どもたちに関しては、36 名に対して継続的な給食や教育、教材の支援を行うことができた。加えて、里親の会のプログラムに加入し、持続的に支援ができるよう取り組んだ。

C.『貧困対策事業』 −自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導−

1. マイクロクレジット支援・能力開発

2016 年度は、マイクロクレジット事業においては、災難であった。カンボジアのマイクロクレジットに関しては、国の規制により従来の貸付けは実施できず、貸付金回収のみができた。インドの農村の信金に関しても、貸付残高は横ばいであり、地域のニーズに応えることができなかった。また、新しく要請のあったベトナムのマイクロクレジットにおいても現地の諸事情により支援が出来ず、再開の目処はたっていない。その他、インドのナプキン工場に関しても必要な資金が集まらず、雇用増加および生産数増加のために必要な資機材は購入できなかった。

フィリピンのマングローブ支援に関しては、地域の人たちの熱心な維持管理により、安定して成長してきている。

スリランカにおいては、長年の農村ファシリテーター育成支援により、より優秀な人材が育成されていることが確認できた。

ネパールでは、養蜂による小作農の人たちの所得向上支援を行い、小作農家 36 人に対して養蜂の指導と養蜂巣箱の設置を支援し、5000kg の蜂蜜の収穫ができた。

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

ネパールにおいては、バイオガスの設置と同時にトイレの設置を促し、20 世帯に 20 基のトイレを設置。地域の環境改善や公衆衛生環境を向上することができた。

(2) 医療支援

インドのムスカ村に念願の病院設立が可能になった。現在支援により必要な基本資機材の導入が行われており、2017 年度初旬には、開院予定である。また、中国の農村地域の医療支援は諸事情により次年度に行うこととなった。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化の為に、インド（RUDYA、HDSI）、カンボジア（KAFS）、スリランカ（SARVODAYA）の運営支援と活動強化を行った。

D.『環境事業』－ 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

1. 植林・水源涵養林養育支援

2016 年度は、ネパール、スリランカ、およびフィリピン 2 ヵ所（内一ヵ所は上述の貧困対策として実施）、において、植林を実施。ここ 3 年間、インドネシアでの植林を計画していたが、気候的に可能な条件が整わなかったために、対象地域の水施設の拡充と清掃に変更し、今後継続することとなった。小学校などの教育機関を通した植林や環境保全は、地域浸透には非常に有効であることが改めて確認できた。植林本数は、フィリピン（8,000 本）、スリランカ（275 本）、ネパール（1,608 本）のみであった。

2. 環境改善・市民による環境保全活動（国際グリーンスカウト運動）

地球環境保全戦略の一環として 1986 年に発足した本会提唱の環境保全市民運動（通称、グリーンスカウト運動）は、現地提携団体を中心に様々な環境における啓発活動が行われている。2016 年度は、上述した通り、インドネシアにて清掃とゴミの収集を定期化していく取り組みが新たに行われた。ネパールにおいては、小学校７校の児童と教師に対して環境セミナーを実施した。地震を経て今後、持続可能な地域づくり（含 学校）を行うためにどのような行動が必要なのかを考え、最終的に目標をたてた。今回より新たに 2 校が加わり、教師の参加意識の向上につながった。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールでは森林破壊に歯止めをかけるため、薪の代替燃料の確保が急務である。そのため牛糞を利用したバイオガスの普及を実施し、2016年度は新たに20世帯に20基のバイオガスプラント設置を行い、人々の重労働の軽減、健康の改善、そして排出物のたい肥利用による農業の発展につなげ生活改善につなげることができた。同時に薪の年間使用量を1世帯当たり約3,200Kgの削減でき、二酸化炭素の排出を年間5トン抑えることにつながった。（ゆうちょ財団NGO海外援助活動助成事業）

E. サイクル・エイド事業

大阪府内の放置自転車の有効利用の一環として、再生自転車を必要としているアジアの開発途上地域に寄贈する事業。本年度は、タイのナン県を中心に 375 台、フィリピンのカタンドゥアネス州に 375 台の自転車が寄贈された。主に子ども達の通学や女性、貧農の生活改善のために有効活用され、それまで不可能だった通学や仕事の効率化、新たな仕事への取組みを可能にし、受益者達が自立への第一歩を踏み出せるようになった。（競輪の補助事業）

上記の各事業に関連して、ワークキャンプ（インドネシア、カンボジア、ネパール、フィリピン）とプロジェクト視察を行った。

Ⅱ．公益目的事業 2　　国際交流支援事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来の本会のネットワークを担う各国各部会の職員の研修、育成のために、奨学金支援を行っている。2016 年度も、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）の地域開発コースに 4 名（インド 1 名、ネパール 1 名、地元フィリピンから 2 名）を派遣した。現在彼らは、それぞれの本会提携団体の職員もしくは、ボランティアとして活動を行っている。引き続き、AFS ナグプールのリニ・パランジャペの看護学校への学費を支援した。ナグプール県内最優秀の成績をおさめ、表彰された。

2. 海外ボランティア研修制度

2016 年度は、研修制度の直接希望者はなかったが、インターンシップ生 2 名がこの制度のもと海外派遣を行い、現地にて海外ボランティア研修の実施を行った。

B.ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1)アジア国際ネットワークセミナー

2016 年度は、インドの IT 都市バンガロールにて、第 26 回アジア国際ネットワークセミナーを実施した。アジア 11 カ国から 48 名が参加した。基調講演やセミナー、参加各国の AFS チャプターからの活動報告と活動における課題の共有を行った。AFS バンガロールチャプターの発足式も行われた。また、下記 AFS ネットワークの共通基金(アジア・フレンドシップ夢基金)拡大に向けた政策、課題の共有、会計報告なども同時に行われた。

(2)アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。2016 年度は、上記のアジア国際ネットワークセミナーにて共通基金の拡大に向けた政策や課題の共有、会計報告を行った。

(3)アジア・ユースサミット

インド、バンガロールおよび、カンボジアのタケオ州にて地域の若者を集めユースリーダー研修会議やセミナーを実施し、改めてユースリーダーとは何か、AFS という大きな運動体の中での若者の役割や行動基準、方法などを確認することができた。

2. 国際体験交流(スタディツアー等)

2016 年度は、インド、カンボジア、ネパール、フィリピンの 4 カ国にてスタディツアーを実施した。フィリピン・パンダンパイプライン 20 周年、インド、コスモニケタン設立 20 周年がならび、これまでの支援者とともに、周年記念を祝うことができた。初めての試みとして、ジャズピアニスト竹中真氏によるチャリティコンサートがネパールにて実現した。また、ネパールの伝統楽器との共演が地元でも大好評であった。

Ⅲ. 公益目的事業 3　　災害罹災者に対する生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1)東日本大震災

2016 年度は、被災地を訪れ復興を応援する恒例のスタディツアーは、現地の諸事情により実施ができなかった。

(2)熊本地震

2016 年 4 月に熊本を襲った地震により被災した人々の支援を実施した。初動の物資配布では、熊本市内、菊陽町、南阿蘇村などの地域にて支援を行ったが、それ以降は、活動地を最大の被災地である益城町にし、避難所 2 ヵ所の運営支援、仮設住居移住後は、仮設団地の見まわり支援などを継続して行った。この活動は、現在も継続中である。全国から多くのボランティアが集まり、協力が得られ、迅速且つ効果的な支援が実施できた。尚、本事業は特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームから一部助成を受け実施することが出来た。

(3) ネパール中部地震

2015 年 4 月 25 日に発生したネパール中部大地震。一年が経過したが復興には程遠い状況の中、低所得者エリアの住宅再建を実施、同時に耐震用住居建設技術の移転研修を行うことで対象地域の全 35 世帯が耐震に配慮した技術を習得でき、防災に配慮した地域づくりを提案。そして安全で安心な地域創生へと繋げ他地域の今後の復興に向けたモデルエリアづくりを行った。その後女性のエンパワーメントが復興につなげるように婦人会の設立から生活再建に寄与する活動を展開した。その他、物資配布、水源地が枯渇した地域への水インフラ復旧、教育機関の復旧支援など復興へ向けての生活基盤整備を引き続き行い、今後の生活安定化に向けた取り組みを実施した。本事業は、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームから一部助成を受け実施することができた。

(4)フィリピン台風ノックテン

2016年12月末にフィリピンのカタンドゥアネス州および周辺州を襲った台風の被災者に対して、緊急の食料配布の支援ができた。これまでの経験から迅速な対応ができた。

Ⅳ. 公益目的事業4　　普及啓発事業

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1)チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民が参加できるよう、様々な形のチャリティプログラムを展開している。2016年度も恒例のJAFSチャリティバザールを年2回実施。初の試みとして毎年クリスマス時期の「JAFS THE PARTY」を「アジアンチャリティパーティ」に変え、在阪の外国人との交流を兼ねたチャリティイベントに変えた。その他、それぞれ各地域や各ファミリーグループの支援趣旨のもと、チャリティイベントやコンサートが実施できた。

(2)国際理解教育講座

国際理解教育講座として、学校及び団体へ講義を行った。2016年度も引き続き、小学校、高校、大学やCSR関連機関への講義があり、より幅広い社会層の人たちへ講義を行うことができた。(講師派遣のべ11ヵ所、参加生徒・団体員数587名)その他、学校や韓国NGOからの委託により授業を受け入れ、国際理解に対する講義を実施した(4校71名)

(3)アジア文化理解講座

2016年度も引き続き、アジア家庭料理教室を中心に料理を通した、アジアの文化理解に努めた。毎月アジアの様々な国の「家庭」料理を取り上げ、アジア13地域21回の教室を行い、のべ316名の参加があった。

(4)インターンシップ制度

2016年度は、神戸学院大学、甲南女子大学から各校2名と個人応募によるインターンシップ1名、計5名のインターンシップ生を受け入れた。本会へのインターンシップでは、事務局内の活動及び国内の様々なプログラムに参加。海外プロジェクト啓発活動では実習を通して国際協力について学び事後活動につながる研修を行った。

(5)法人関連プログラム

本会の18ヵ国のネットワークと法人とのつながりを強め、国際貢献のできるグローバルな人材を育成するために、法人を対象としたセミナー(国際貢献型グローバル人材育成セミナー)を開催した。2016年度は、2回実施し、のべ59名が参加した。

(6)関連プログラム

関係団体と連携の中、理事、評議員、幹事、講師、運営委員として協力。来場者25,000名あった関西最大の国際協力のお祭り“ワン・ワールド・フェスティバル”には実行委員会メンバーとして実施に協力した。その他、ネットワークNGOのJANICによる全国最大規模の国際協力に関連するイベント「グローバルフェスタ」に本会の関東地区が代表として参加した。熊本地震においては、ジャパン・プラットフォームから助成を受けただけでなく、益城町支援における連携を行い、充実した活動が展開できた。その他、関西NGO協議会、関西国際交流団体協議会などと引き続き連携を行った。

2. 地区活動

本会の活動をより多くの人たちに広めていくために本年度も全国各地域にいる本会地区世話人を中心に広報、ぞうすいの会、ウォーカソン、環境活動を基本プログラムとして啓発活動が行われた。2016年度は、エリア幹事会、地域活動推進委員会が中心となり、地域活動の強化が行われた。

3. 広報

(1)機関誌

本会活動情報誌「アジアネット」を年 4 回発行し、事業報告と海外情報などを提供した。
新規の支援者を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペース向けに送付を始めた。

(2)インターネット・フェイスブック

本会のイベントやニュースなどを随時更新した。ホームページについては、各ページの具体的内容が把握しやすく検索語にヒットしやすいことを狙い、各ページタイトルを修正した。フェイスブックにも常時必要なイベントの掲載、広報、報告を行った。時折海外からのニュースも届けた。

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど 17 グループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。英語や旅をすることを通して国際協力をする英会話クラブ、旅人(たびんちゅ)などの新しいファミリーグループができた。

5. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の下、活動が活発に行われた。

B. 環境保全・啓発教育事業

環境保全・教育を中心に次世代の人材育成のために下記の事業が実施された。

1. 国際グリーンスカウト活動

(1)「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は 33 回を迎えた。総勢 167 名参加の 5 泊 6 日の充実したプログラムを実施することができた。宮城県名取市からの小学生参加者 10 名もあり、自然の中での子どもたちの交流が育まれた。

(2)美山「土と水と緑の自然学校」開催

美山「土と水と緑の自然学校」京都府南丹市美山町にて開催した。「農村と都市の交流」を基本とし、自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通して自然と人、人とコミュニティの繋がりを体感し、学ぶ実践型のプログラムを実施した。ボランティアを含め合計 50 名が参加した。

(3)国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。現在国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方の 3 地域に部会を持つ。グリーンスカウト大阪は毎週木曜日に例会を開催。エコキャンプ、美山や新宮の土と水と緑の学校、環境プログラムの開催、リーダー研修を行うと同時に、アジア里親の会の里親として海外の教育支援を行った。GS 吹田は、毎月 1 回例会と吹田市の糸田川清掃活動を継続、及び恒例の無人島キャンプを実施した。GS 寝屋川・枚方は、第 2 エリアの「北河内緑とふれあう会」のメンバーとしてその活動に参加した。

V. 運営管理

本年度も、理事会(5 回)を開催、事業や運営の課題について話し合った。それに伴い、各常置委員会も開催された。公益社団法人移行後、初の内閣府による立入検査を 7 月 13 日に受けた。検査は事業の実施状況、財務・会計処理、法人の自治の 3 つの側面で行われ、いくつかの指導を受けた。その中で特に定期提出書類である事業報告の中の会計報告については修正を 12 月末までに行った。

以上を以て 2016 年度の活動事業報告の概要としたい。

Ⅰ．開発支援事業

Ⅰ－A．水事業

1．井戸・飲料水供給

（2017 年 3 月現在）
（パイプライン・貯水タンクを含む）

国　名	2016 年度完成	累　積
インド	6	471
インドネシア	-	45
カンボジア	16	390
スリランカ	6	99
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	20	213
バングラデシュ	-	152
パキスタン	-	8
フィリピン	3	380
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	-	22
ラオス	-	21
合計	51	1,891

●インド

RUDYA　マハラシュトラ州ガッチロリ県　1 基

ポンプ式井戸	1 基

ダンノーラ地区パンドハルサーラ村

HDSI　マハラシュトラ州アムラワティ県　5 基

ポンプ式井戸	5 基

アチャルプール地区アンバーダ村
アチャルプール地区ワスニ・ブジュルク村
アンジャガオン・サルジ地区エクララ村
チャンドゥール・バザール地区ダヒガオン村
バトクリ地区ジャルカ・ヒラプール村

●インドネシア

HOSANNA　北スラベシ州

パイプライン・給水タンク	拡充整備

トモホン市バスラテン村

●カンボジア

KAFS　タケオ州　16 基

露天式井戸	16 基

トレアン郡クバブ地区クダイルン村(2)
トレアン郡ロネアム地区クラウン・トベア村
トレアン郡ロネアム地区トラペアン・トム村(3)
トレアン郡ロネアム地区トメイ村
トレアン郡ロネアム地区プレイ・パ・エイ村(2)
トレアン郡ロネアム地区ソピー村(2)
トレアン郡プレイスルック地区ネアル村
トレアン郡ブランベイマム地区
ダムナックレアチア村(2)
ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラパインサラ村
ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラパンチュレイ村

●スリランカ

SARVODAYA　6 基

露天式井戸

ウバ州バドゥラ県ドラマ・ニラダリ地区イルクタナ村
ウバ州バドゥラ県エラ地区ヤハレゴダ・エラ村
ウバ州バドゥラ県ウワ地区パランナガマ村
ウバ州バドゥラ県ドラマ・ニラダリ地区エレウェラ村
ウバ州バドゥラ県グランアルピン地区ヒングルガムワ村
東部州アンパーラ県ウハナ地区
ニランバ・コンガス・ワトゥヤヤ村

●ネパール

AFS-ネパール　ネパール全域　20 基

簡易水道付パイプライン式井戸	18 基

バグマティ県シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村
Word No.7（ダラパニ）9
チャンデソリ H.S.S.　1
バグマティ県シンドゥパルチョーク郡シパポカリ村
Word No.1　8

貯水式井戸	2 基

バグマティ県カブレパランチョーク郡トゥクチャ村
Word No. 6（プネトール）2

●フィリピン

KALIPI　ヌエバエシハ州　2 基

ポンプ式井戸	2 基

サンレオナルド町タンボ・アドラブル村
カビアオ町カプット村

AFS-UMD　ソルソゴン州　1 基

簡易パイプライン式井戸	1 基

マトノッグ町サンタイザベル村
ソサンタイザベル小学校

Ⅰ．開発支援事業

建設中の井戸	20 基
インド	2 基
カンボジア	2 基
スリランカ	2 基
ネパール	2 基
バングラデシュ	3 基
フィリピン	6 基
ミャンマー	1 基
ラオス	2 基

井戸の水をくむ村の女性や子どもたち（スリランカ）

完成した井戸から水をくむ村の女性（フィリピン）

井戸から水をくむ村の子どもたち（カンボジア）

完成した井戸と村の人たち（カンボジア）

井戸から水をくむ村の女性たち（インド）

大地震後 2 年ぶりに集落が戻り喜ぶ村の人たち（ネパール）

Ⅰ－B．子ども事業

１．初等教育普及・向上

（１）アジア里親の会

人間にとって欠かすことのできない学校教育。子どもたちはそれを受ける権利があり、大人はそのための環境づくりを行わなければならないが、アジア地域では、経済的理由やその他、通学困難な状況下に置かれ、就学できない子どもたちがまだ多くいる状況である。一人でも多くの子どもが基礎教育を受けることが出来る機会を作るために、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子ども達を里子、日本側支援者は教育里親としてサポートするプロジェクトを実施している。加えて中途退学生を減少させ、農村部の子どもたちの教育向上をめざす。

近年、就学の有益性を親たちも理解し、農村部においても就学率が向上しつつある一方、未だ南アジアにおいては女子教育に対する理解が不足している。また経済成長している国においては、ある程度の年齢になると就学よりも働いて賃金を得、家族を支えることが優先される現状がある。

加えて学校環境には、教材不足、低質な教育、教員不足、両親の無理解など様々な問題・課題が山積みである。その改善には地域（コミュニティ）を巻き込んだ学校教育の確立を行っていく必要性がある。本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。里親には対象の教育施設に通う子ども（里子）を紹介し、手紙などによる相互交流を行った。2016 年度は 489 人の里子を支援。里親の存在が里子たちの心の支えにもなり、学習への意欲向上など良好な方向に導くことにも繋がっている。

アジア里親の会　里親決定状況　　（2017 年 3 月現在）

国名	2016 年度里子数	里子累計数
インド	175	426
カンボジア	82	193
ネパール	171	241
バングラデシュ	36	214
フィリピン	25	28
合計	489	1,102

●インド

BSVIA　　教育支援事業　　96 名

【カルナータカ州ビジャヤプーラ県ブルナプール村】

アジア里親の会の支援を通して、日印友好学園コスモニケタンの教職員の給与、教材、制服、文具などの運営の一部を支援した。一方で学校運営自立のために、授業料の確保、他校からの転入生、成績が悪化した生徒のための有償のサマーコースなどを実施した。

SSH　　教育支援事業　　18 名

【タミルナードゥ州ディンディガル県　　8 名
ナマカル県　10 名】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身が HIV に感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援（累計 70 名）。

RUDYA　　教育支援事業　　25 名

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちの中でも反政府活動により近辺の小学校が封鎖され、遠くから通えないために、寮生活を余儀なくされた生徒の寮生活と継続して就学できるための支援を実施。昨年に政府助成校として認定されたが、未だに助成金は届かず、継続し、運営支援を行った。

AFS-Nagpur　チャイルドアカデミー　　36 名

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子ども達の就学支援。加えて十分な食事を摂ることが出来ていない子どもたちに給食の提供、就学が遅れている子ども達に読み書きを教え、子ども達に学習への意欲を与える活動を支援。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業　　82 名

【タケオ州】

タケオ州の小学校、中学校、高校の運営支援および、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal　教育支援事業　　33 名

【ノールパラシィ郡ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援（継続就学と高校教育修了）と学校運営支援。

ヤシャシュビ学園　　29 名

【カトマンズ郡シタパイラ村】

ヤシャシュビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を目指した支援。

AFS-Nepal　ナウリンセカンダリースクール　　71 名

【カトマンズ郡チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない子ども、特に移住労働者の子女への学費支援と学校運営支援。

AFS-Nepal　ボテシパ村　教育支援事業

チャンデスウォリ　H.セカンダリースクール　　14 名

AFS-Nepal　サラソワティー　L.セカンダリースクール　　19 名

【シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村】

2015 年に発生した中部大地震により大きな被害を受け、家屋倒壊により経済状況が悪化した世帯の子どもたちの就学支援を開始。高等学校卒業まで就学できるよう学費支援と学校運営支援を行った。

AFS-Nepal　バクタプール教育支援事業

クリエイティブ イングリッシュ セカンダリースクール　5 名
【バクタプール郡バクタプール市】
2015 年におきた大地震で大きな被害をうけ、その後経済状況が困難になった学生たちが就学を継続できるよう支援を開始。

●バングラデシュ

BDP　教育支援事業　36 名
【ダッカ・ガジプール県】
バングラデシュでは小学校卒業以上の就学費負担が高額のため個人負担費が多くなるために中学校以上の就学率が下がっている。就学意欲のある子どもが中等～高等教育を受けることができるよう就学支援を実施。

●フィリピン

ASI　教育支援事業　25 名
【カビテ州ダスマリネス町パリパラン】
【マニラ市マラテ町サンアンドレス】
マニラ市郊外のダスマリネス町パリパランに強制移住させられたストリートチルドレンとその家族。2016 年度も引き続き教育継続のために授業料、教科書、教材を支援。加えて、パリパラン内のコミュニティセンターにて学校補習を行った。
2016 年度からは、新たに彼らの元居住先であった国鉄線路沿いの村サンアンドレスにて移住先のない家族を支援。本事業を通しては、上記同様子どもの授業料、教科書、教材支援に加え、学校補習を支援した。

２．教育設備・環境整備

（１）学校建設

（2017 年 3 月現在）

国名	2016 年度建設数	校舎棟累計数
インド	-	20
インドネシア	-	2
カンボジア	-	41
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	※3	37
パキスタン	-	2
フィリピン	-	7
ベトナム	-	3
合計	3	123

※学校及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●インド

RUDYA　日印友好学園パダトラ小学校　1 教室
【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】
1 年生から 7 年生が通うパダトラ小学校に 8 年生を加え、同校内にてプライマリー教育が完結し、優秀な人材を輩出するために、同校に 1 教室を増築した。加えて、山羊などが入り、同校内の農園の収穫物を食べあさらないようにフェンスを設置した。

●ネパール

AFS-Nepal　小中学校増設及び設備支援　3 棟
【シンドゥパルチョーク郡シパガート村】セティ デヴィ小中学校】
※地震により倒壊した校舎の復旧に対する建設を実施。詳細はネパール中部大地震支援事業の欄に記載。

●フィリピン

ASI　デイケアセンター建設支援事業
【リザール州カルドナ町サンパッド村、ナグサンディグ集落】
2009 年に発生した台風オンドイにより破壊されたナグサンディグ集落の子どもたちの学校教育補習・初等教育施設であるデイケアーセンター再生支援の要請を受けた。しかしながら、現地の諸事情により、デイケアセンターの建設には至らなかった。

（２）教育環境整備

●インド

BSVIA　日印友好学園コスモニケタン学園
【カルナータカ州ビジャヤプーラ県ブルナプール村】
コスモニケタン学園の小学校に子どもたちの勉学向上を目指して机と椅子 20 台を支援した。加えて課題であった自己財源強化のために、収入源である学生寮費を増やすために 2 段ベッド 20 台、スマートクラス（化学の実験などをビジュアル化し、理解を深めさせるクラス）用の機材一式を導入し、自己財源強化と授業内容向上に努めた。

RUDYA　日印友好学園パダトラ小学校
【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】
インド共和国記念日に、全校生徒対象に新しい制服、教科書、教材を支援した。また、寮生に対して、新しい毛布などを支援し、寒波対策に努めた。

●モンゴル

MoAFS　ゲル地区の保育園支援事業
【ウランバートル市エミーン・ウルグマル・ゲル地区】
ウランバートル市の貧困層や地方からの移住労働者が集まるゲル地区には、安心して子どもたちを預け、保護する保育園がなく、短時間定収入の仕事しか就くことが出来なかった。このような状況を改善するために MoAFS は、自身が保有していた土地とビルを保育園にした。本会の支援により、政府認定の保育園にするためのビル改築、遊具や教材の導入、登録の諸業務を実施した。

３．ＨＩＶ／ＡＩＤＳ子ども感染予防

●インド

SSH　HIV／AIDS 支援
【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】
タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県で非識字層の移動労働者が感染経路となり農村に広がる HIV/AIDS。様々な支援により、感染、発症率ともども減少傾向にあるが、未だに上記 2 県の感染率は、タミルナードゥ州、州都チェンナイにつぎ 2 番目、3 番目であり、感染源はいずれもトラックの運転手や移動労働者（低カースト層の主な職業）であることから、職業別における HIV/AIDS の啓発強化が課題となっている。その啓発と 5 世帯に支援をし生活の安定につなげた。

４．栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

●ネパール

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシィ郡カワソティー市ピトゥリ村】

ネパールの農村では家計が不安定なため、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。健康状態や成長が改善されることを目的として小学校給食を支援。同時に栄養指導を行うことで、給食の意味や食べ物より実施。農村部ではカロリー確保するために炭水化物中心の食生活で、成長期のこどもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分である。ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援(22 年間)。学校のプログラムに組み込まれるようになり、子どもの栄養不足を補うだけではなく、様々な教育的要素を兼ねている。継続支援を行う事で生徒たちの健全な学校生活と健康保全に繋がっている。

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 教育者への指導

【ガンダキ県カスキ郡ポカラ】

女子の小学教員を育てるための高等専門校 カンニャキャンパスで教育を受け出身地の教員となるために学び寮生活を送っている学生に、卒業後教育者となる上に必要な基本的栄養知識とネパールの栄養欠乏の一つであるヨード欠乏症に関しての知識を習得してもらうために栄養指導講座を実施。10 名の女子学生が受講。(ネパールヨードを支える会の共同事業として実施)

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町パリパラン】

【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市内の国鉄線路沿のサン・アンドレスには移住先が決まらず、廃材を活用した小屋に住む家族がいる。一方パリパランは、サン・アンドレスから強制移住させられた子どもとその家族が生計を立て暮らしている。双方共、貧しく子どもたちの教育継続が危うい状態にある。子どもたちが教育継続できるよう授業料、学用品等の支援、両地域のコミュニティセンター内で学校補習や衛生教育・環境教育リーダーシップトレーニング等を実施。又両親に対しても地域の環境改善や生計支援、子ども達の価値観形成等について指導を実施。

保育園に通うゲル地区の子ども達と先生（モンゴル）

コスモニケタン学園の寮に設置された二段ベッド

サンアンドレスにて教育支援を受けている子どもと母親

給食を友人たちと楽しむ生徒達(ネパール)

Ⅰ－C．貧困対策事業

1．マイクロクレジット支援・能力開発

●インド

RUDYA　女性の自助グループ(SHG)支援事業
【マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区
ラクシミーボリ村】
本会の支援により設立された貧困層の個人小規模店舗や女性の自助グループ(SHG)へのマイクロファイナンスのために設立された「アダーシュ信用組合銀行」。自己資本の強化の貯蓄率の向上を目指して、村に働きかけを行ったが、業績は前年度と横ばいであった。

SPARSH　女性の雇用促進支援事業
【マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区】
性や生殖に関する差別や虐待をなくし、雇用を生み出すために、農村の女性たちが働く生理用ナプキン工場が SPARSH により建設された。2016 年度製造機器の導入の要請を受けてきたが、現地の諸事情に伴い、製造機器の導入は出来なかった。

●カンボジア

KAFS　マイクロクレジット支援事業
【タケオ州ドーンケオ郡、トレアン郡】
タケオ州ドーンケオ郡、トレアン郡にて両郡 56 村を対象に実施しているマイクロクレジット事業であるが、カンボジアのマイクロファイナンス機関の一部が資金を乱用し、破綻したため、カンボジア国内の特別金融業に登録されていない機関や法人のマイクロファイナンスを一時停止した。本会は NGO 登録であり、金融業登録は出来ないために、この政策に従い、マイクロクレジット事業を一時停止し、2016 年度は、貸付金の回収のみを行った。2017 年 6 月時点においても一時停止措置は解消されていない。

●スリランカ

SARVODAYA　サルボダヤ農村スタッフの人材育成支援
【スリランカ全域】
スリランカ提携団体サルボダヤ傘下の組織であるビジュヌ・ニケタン瞑想センター(瞑想を通して人々の心に眠る能力を覚醒させる)およびサルボダヤ・スワセタ・セワ(孤児の教育・職業訓練支援)に携わるファシリテーター育成のために、サルボダヤをリタイヤしたスタッフを派遣し、自らの経験を通した人材育成支援を行った。

●ネパール

AFS-Nepal　養蜂による小農家収入向上支援
【ナラヤニ県チトワン郡ゴイラコット】
養蜂生産者 34 名の収入向上支援
ネパールの多くは農業に依存した生計であるが、安定収入につながる農業ではなく各世帯が食べ凌げるための農業である。そのため海外に出ていく人々が多く、地域が衰退していく状態にあり、地域特産品を生む農業の実施が急務な状況であった。そのため地域の小農民 34 人に対して 102 の巣箱の提供と、養蜂のトレーニングや講習を行い養蜂を実施。裨益者農民による生産者グループがつくられ、実施 2 年目の本年度は昨年度より農民 2 人と巣箱を 46 増やすことが出来、5,000 kgの蜂蜜を収穫。収入を得ることが出来た。今後も生産量を増やしていくと同時に、生産者グループへの加入者を増やして収穫量の安定性を確保していく。

●フィリピン

AFS-UMD　マングローブ植林プロジェクト　7,500 本
【ソルソゴン州マトノッグ町サンタイザベル村、バグリラン村、バヌガアン村、カマチラス村】
沿岸地域開発や薪のために失われたマングローブを取り戻し、低所得層の人々の漁場を作るために 2012 年度から開始したマングローブ植林事業。本年度は、計 7,500 本のマングローブを植林した。活着率は場所によって異なるが、平均約 70%で、今後さらに確率を上げていけるよう、苗や植え方を工夫していく。事業を継続する中で、新たな村も植林に参加するようになった。
※JAFS マングローブ植林ワークキャンプ実施。

●ベトナム

VAFS　マイクロクレジット支援事業
【ドンタップ省タンビン地区】
同地区の僻地農村において養豚によって生計を立てている人たちの所得向上のために養豚を対象としたマイクロクレジット支援の要請を受けた。しかしながら、現地の諸事情により、マイクロクレジット事業実施が難しくなり、2016 年度の支援は中止した。

2．保健衛生指導・医療

（1）トイレ建設

(2017 年 3 月現在)

国名	2016 年度完成	累積
インド	-	1194
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	20	928
タイ	-	9
ラオス	-	1
合計	20	2397

●ネパール

AFS-Nepal　農村トイレ建設支援
（バイオガスプラント設置付帯事業）20 基
【バグマティ県バクタプール郡バゲスワリ村】
ネパールでは、バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレ設置を始める農家が多くなっている。本会のバイオガス設置対象としているバゲスワリ村では今年度はバイオガスプラント 20 基の設置に対し 20 世帯にてトイレの設置が行われた。

（２）医療支援

●インド

RUDYA　ムスカ村健康増進プロジェクト

【ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

2017 年２月、ムスカ村内の病院開設資金が全て集まり、病院開設の準備が行われている。医者１名、看護師２名、職員１名を配置し、内科、簡単な外科（切り傷や擦り傷など）および予防接種などが行えるようにした。

当初予定していた村内ハイスクールの新校舎完成、移転が未だに進まないために、そこのハイスクールには病院を開設することが出来ず、現在は、村内の協力者が、自らの空き屋と土地を提供し、病院を開設することとなった。同時に新校舎に併設予定であったトイレ建設も現在中断をしている。

●ネパール

AFS-Nepal　地域医療向上支援事業

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村等】

地震支援を機に婦人会を作ったことで女性が抱える問題が見えてきた。山間地にあるボテシパ村は薬屋はなく、女性は月経の際に市販のナプキンを使用することはない。そのために学校を休むティンエイジャーが多く、彼女たちが安心して学校生活を送れるように布ナプキンを作成し配布しながら性教育を実施していくプログラムの実施を開始した。お産を迎える妊産婦の医療フォローなどを行うために必要な医療器具の支援を日本の廃業した産婦人科医よりのご協力をうけ実施した。

●中華人民共和国

アナディアル病院支援事業

【新疆ウイグル自治区】

アナディアル病院は、距離や経済的理由から今まで医療を受けることができなかった農村地域の貧しい人々の医療環境改善を目的に 2007 年に設立。農村地域の患者が治療を受けられるように、支援を計画していたが、諸事業により次年度に支援をおこなうこととなった。

３．提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークAFSの各国部会（NGO）の活動の強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

RUDYA（インド）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

HDSI（インド）

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助。

KAFS（カンボジア）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA（スリランカ）

サルボダヤの元スタッフのクナシリ氏の活動費を支援。
2016 年度は、本会のサルボダヤを通した水事業継続、サルボダヤ内の瞑想センターの人材育成、孤児の保護と教育・職業訓練施設であるサルボダヤ・スワセタ・セワにおけるファシリテーターの育成を行った。

女性の自助グループ（SHG）の人たち共に会合（インド）

マングローブ植林（フィリピン）

Ⅰ－D．環境事業

気候変動が、ますます悪化し、環境、経済、社会に大きな影響を及ぼしている。持続可能な社会に向けて、災害や環境破壊から地域の回復力（レジリエンシー）強化においても、環境保全が当たり前のようになってきた。その中においても本会の活動地は、目先の経済発展に追われ、環境保全が程遠い状況にある。

2016 年度もネパール、スリランカ、フィリピンなどにおいて植林が行われ、地域の人たちから多くの参加を得ることができた。これらをきっかけに更なる地域の人々の植林に対する参加と地域から環境を変える思いを持った市民が生まれることが期待される。

１．植林・水源涵養林養育

（１）植林

（2017 年 3 月現在）

国　名	2016 年度植林	累　積
インド	-	712,205
インドネシア	-	200,960
カンボジア	-	18,000
スリランカ	275	675
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	1,608	300,024
パキスタン	-	4,560
フィリピン※	8,000	115,315
バングラデシュ	-	26,500
	9,883	2,504,264

※フィリピンマングローブ植林は貧困対策事業として実施。

●インドネシア

HOSANNA

【北スラベシ州トモホン市パスラテン村】

パスラテン村の人たちの植林を通した環境保全啓発のために植林の要請を受けたが、干ばつが長引き、通常の植林時期に植林ができなかったために、2016 年度、植林を中止。このような事情が 3 年続いたために、植林を通した環境啓発は当面中断し、今後は 2015 年度建設した貯水池の拡充と貯水地周辺の清掃を通した環境保全へと移行した。

●ネパール

AFS-Nepal　コミュニティー フォレスト　308 本

【ルンビニ県ノールパラシィ郡ピトゥリ村】

環境を守るため又地域開発運営の為に村民たちによるコミュニティーフォレスト活動を継続実施している中、一級河川のナラヤニ川の岸が河の流れと地形の関係でけずられている状況が深刻化し始めた。そのために護岸を行うための工事と植林を並行して実施することを多年度計画で実施中。3 年目を迎え護岸に大きく寄与している。加えて森の拡大のために今年度はライチなどの果樹､蜂蜜用の花が咲くインディアンバターツリー等の植林を行い、森と農村の人々のつながりを重視した活動を行っているが、2000 年に植林を行った植樹地には野生のサイが生息するようになり自然な森になりつつある。

※一部「緑の基金」国際緑化公募事業の助成により実施

AFS-Nepal　コミュニティー フォレスト　1,300 本

【バグマティ県カトマンズ郡チュニケル村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を、引き続き実施。FUG（フォレストユーザーズグループ）はコミュニティーフォレストとして地域の森作りを以前より実施している。近隣の学生がグリーンスカウト活動の一環として携わり、水源涵養林や香辛料の木、ロプシーと呼ばれるネパール自生の実がなる木の植樹を実施。　一部、夏季ワークキャンプで参加者との協働作業を行った。

●スリランカ

SARVODAYA　植林　275 本

【ウーバ州バドゥラ県パサラ地区】

子どものころから環境を守る心を育てるために、植林を通した環境啓発プログラムを上記地区のゴナガーラ・マハ・ビジャラヤ小学校にて実施した。ビャクダンやジャックなどの木々を 275 本植林し、環境保全の誓いの宣言を行い、学校にて採択された。

●フィリピン

AFS-Virac, Catanduanes パロンバネス島植林プロジェクト　500 本

【カタンドゥアネス州カラムラン町トイトイ村パロンバネス島】

漁村の島、パロンバネス島。島の 7 割は、焼畑、森林伐採が進み、現在では禿山が広がっている。その影響は表土の侵食、サンゴ礁の破壊、水不足、海の汚染、魚の減少等として出てきた。10 年前にに植林された木々は 10mを超す大きさに成長し、山肌にしっかりと根を張り、果樹は実もつけるようになった。少しずつ改善はされているが、水源の枯渇は深刻な問題であり、継続した取り組みが必要とされる。学校の子ども達を中心に環境保全に対する意識向上と協力体制を構築している。

今年度は、学校の裏手にある山にマルバリ、ガヤバノ、アナハウ、タリサイ、ボトンボトン、ランブータン等の植林をおこなった。また環境の専門家から村人たちに木々に関する知識や家庭菜園の指導をおこなった。

※第 10 回フィリピンパロンバネス国際ワークキャンプにて植林実施

２．環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト（GS）運動とは「Think Globally、Act Locally（地球規模で考え、地域で行動を）」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986 年

に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFS の海外ネットワークを通じて 16 ヵ国にて展開。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。本年度もインドネシアをはじめネパールなどにおいて環境保全啓発のための運動やセミナーが行われた。

●インドネシア

HOSANNA　環境保全啓発

【北スラベシ州トモホン市パスラテン村】

同村内の環境保全の啓発と環境維持を目的として、2015 年度に設置した同村内の貯水地周辺の清掃を実施した。118 名の村人が参加し、貯水地周辺のゴミ拾いと貯水地への水路の清掃・整備を行った。

※イオンリテールワーカーズユニオン・アセアンセミナーにて同事業を実施した。

●ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー　　7 校

【バクタプール郡、カブレ郡トゥクチャ村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシィ郡ピトゥリ村、シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村】

GS 活動を行う小学生対象の環境セミナーを 12 月に 7 校合同で実施。8 月にも合同での実施を予定していたが、現地の試験スケジュールが地震後変更となり、各校にこちらより出向き実施。地震を経て今後、持続可能な地域づくり（含 学校）を行うためにどのような行動が必要なのかを考え、最終的に目標をたて、実施していくため学校全体でシェアーし合った。今回は実際に被災地で実施したことで被災地外の子ども、教師も地震により被害を地震の目で見ることで自然災害の脅威を実感し、防災意識にもつなげた。参加校＝スリーサンティ小学校（ピトゥリ村 6 地区）、ラーズラトナ小学校（ピトゥリ村 4 地区）、ピトゥリ小学校（ピトゥリ村 9 地区）、ナウリン小学校（チュニケル村）、スウエットバラヒ小学校（トゥクチャ村）、チャンデソリ小学校（ボテシパ村 7 地区）、サラソティ小学校（ボテシパ村 8 地区）

※一部、ゆうちょ財団 NGO 海外援助活動助成にて実施

AFS -Nepal　グリーンスカウト ローカルＧＳ組織づくり

【バクタプール郡スダール村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシィ郡ピトゥリ村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカル GS づくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。

ピトゥリ村 GS は、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して継続実施している。　チュニケル村 GS は、ナウリンセカンダリースクールの里子たちがその役割を担い地域清掃及びコミュニティーフォレスト活動を通じ地域の環境保全のために活動。スダール村 GS はコミュニティーフォレストにて植林を実施。

３．再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS- Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業　　20 基

【バグマティ県バクタプール郡バゲスワリ村】

資源が少ないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が、確実な燃料確保につながると同時に、人口増加とともに森林破壊が進み、その歯止めとし薪の代替燃料の確保が急務となっているため、複数年計画で実施している。農村に住む人々の生活改善（薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のスラリーは農業に欠かせない堆肥となる）にも大きく寄与している。効果として、1 基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000Kgの使用量の内70～90%削減することができ、国土の30%台にまでに減少（以前は70%）した森林面積の回復にも繋がる。同時に普及セミナーの実施を行うと共に、トイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも繋がっている。

【現在まで累計 1,096 基設置】

※本事業は、ゆうちょ財団 NGO 海外援助活動助成にて実施

住民向けバイオガス普及セミナーで理解者を増やす（ネパール）

子どもたちとともに環境保全啓発のための植林（スリランカ）

村の人たちとともに貯水地周辺の清掃作業（インドネシア）

Ⅰ－E．サイクル・エイド事業

1．サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間 50 万台に上り、うち約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リユースの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府等がメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供　計 750 台

放置自転車を収集するために、府内各市町村へ協力の呼びかけを実施。今年度は下記の 6 市から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、海上輸送された。

◆府内協力市及び台数

堺市　200 台、八尾市 200 台、阪南市 100 台、
泉大津市 50 台、泉佐野市 100 台、大阪市 100 台

今年度はタイに 375 台、フィリピンに 375 台、合計 750 台の自転車が寄贈された。事業開始以来、アジア、アフリカの 10 ヵ国に合計 30,073 台の自転車を贈ることができた。

タイ　375 台

タイに贈られた自転車は、ナン県の子ども達の通学に加え、医療従事者の巡回、貧しい農民、環境保全の活動に従事する人々に手渡され、有効に活用されている。

10 月に贈られた自転車はタイ・サイクルエイド委員会のメンバーの手によって北部のナン県まで届けられ、学校や地域のコミュニティセンターで順次自転車贈呈式典が行われた。12 月 18 日に行われた式典では子ども達へ 1 台ずつ自転車が手渡され、自転車を大切にして勉学に励み、地域の教育や福祉環境の向上、地球環境保全に地域が協力し取り組むことについて話し合われた。贈られた自転車によって、それまで毎日通学することができなかった子ども達が通学できるようになり、また仕事の効率化、生活の改善をも可能にし、村人たちが自立への第一歩を踏み出せるようになった。また、環境保全に取り組む具体的な活動として、子ども達に自然の成り立ちや有機栽培についての教育プログラムをおこなった。子ども達をはじめ、地域で意識を変え、協力しながらより良い地域づくりが進められている。

NGO、行政、村人、学校の先生、保護者等が世代、国境を越えて協力していくよいきっかけとなった。

また地球環境保全への意識を高めることで、同じ地球市民としての視点をもち、互いに協力しあう国際交流の推進活動を拡げていくことが期待される。自転車を通じて、日本と各国の国際交流が活発になり、また、事業を継続することで人と人の絆が深まり、草の根の理解と協力の輪が拡がってきている。

フィリピン　375 台

フィリピンに贈られた自転車は、学校に通う子ども達や先生、地域のコミュニティワーカーや自警団を中心に寄贈され、通学や仕事のために活用されている。

自転車の利用で地域の農民達が効率よい生活環境に変えていくことにより、社会進出や生活向上へつながっている。また、勉強を続けたいが、家庭の経済的状況のため毎日の通学や進学をあきらめていた小・中・高校生の子ども達にも寄贈され、毎日安全に通学し、継続した教育を受けることができるようになった。

自転車の寄贈は、公平またより必要とされている人々に贈れるよう、政府、現地 NGO、村の組織等で協力体制をとりながら、取り組んでいる。カタンドゥアネス州はフィリピンの東に位置していることから毎年多くの台風が訪れ、深刻な被害が出ている。定期船が出ないときには生活インフラが止まってしまう状況に陥ってしまうが、ガソリンを必要としない自転車は貴重な運搬手段として災害時にも役立てられている。

3月14日～20日にはカタンドゥアネス州で国際交流プログラムが行われ、様々な意見交換がおこなわれた。

(2) サイクル・エイド関連国内プログラム

◆ サイクル・エイド支援会議開催・意見交換・事業報告会

日程：2016 年 6 月 7 日(火)　場所：大阪府
参加者：12 名
内容：寄贈先での自転車利用状況や活用方法について報告会をおこなった。現地で自転車を必要としている村の様子や子ども達を取り囲む環境についてより深く知ってもらいうことができた。また、この事業から派生して環境保全の取り組みや、地域の他の事業への協力体制も徐々に強まってきていることから、事業を継続しておこなっていくこととなった。

◆ 泉大津フェニックス野外コンサート

日程：2016 年 8 月 27 日(土)、28 日(日)、
9 月 3 日(土)、10 日(土)、11 日(日)
場所：泉大津フェニックス
主催：泉大津フェニックス夏フェス 16 実行委員会事務局
来場者数：合計　約 72,000 人
＜内容＞

泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕凪町」では、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で、野外コンサート等各種イベントが開催されている。今年度は RUSHBALL2016、OTODAMA'16 ～音泉魂～、OSAKA HAZIKETEMAZARE

FESTIVAL 2016 が開催され、多くの音楽ファンを魅了した。コンサート主催者の多大なる協力のもと、会場内のブースでサイクル・エイド事業の活動紹介とチャリティバザーをおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

◆ 泉大津市交通安全大会
日程:2016 年 9 月 26 日(木) 場所:泉大津市
主催:泉大津市交通安全推進協議会
　　忠岡町交通安全推進協議会
後援:泉大津市・忠岡町・泉大津警察署・泉大津交通安全協会
＜内容＞
泉大津市交通安全大会の会場で、サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介、募金活動をおこなった。多くの方に来場いただき、事業への協力を得ることができた。

◆ 四條畷市民の集い
日程:2016 年 10 月 23 日(日) 場所:四條畷市
主催:市民憲章推進協議会
＜内容＞
第 42 回市民の集いの会場で、サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介をおこなった。また、アジアの民芸品や飲食の販売をおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

◆国際交流プログラム
【フィリピン料理教室】
日程:2016 年 4 月 12 日(火)、21 日(木)
場所:クレオ大阪西　参加者:27 名
内容:寄贈国の料理を通じて、楽しく身近にその国を理解できるよう、日本に住むフィリピン人を講師に迎え、料理教室をおこなった。参加者は家庭料理を学びながら、フィリピンの習慣や文化等についても話を聞き、プロジェクトの背景についても知ることができた。

【タイ料理教室】
日程:2016 年 10 月 4 日(火)、20 日(木)
場所:クレオ大阪西　参加者:29 名
内容:寄贈国の料理を通じて、楽しく身近にその国を理解できるよう、日本に住むタイ人を講師に迎え、料理教室をおこなった。参加者は家庭料理を学びながら、タイの習慣や文化等についても話を聞き、プロジェクトの背景についても知ることができた。

【フィリピン　海外プログラム】
日　時:2017 年 3 月 14 日(火)～20 日(月・祝)
場　所:フィリピン　カタンドゥアネス州
参加者:約 200 名
内　容:自転車寄贈先であるフィリピン カタンドアネス州で行政・学校(教師・保護者・子ども)・農民等の村人達を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。
本事業に関係する様々な分野の協力者と意見交換を行うことで、今後の事業の必要性や進め方や取り組みについて話し合うことができた。また、共に地球や地域の環境保全について意見交換をおこない、次世代のために村全体で自然を残していけるよう継続した活動をおこなっていく思いをあらたにした。環境の専門家から村人たちに木々に関する知識や家庭菜園の指導をおこない、参加者全員で植林をおこなった。期間中にはホームステイをし、日本とフィリピンの互いの国の文化や生活習慣、考え方等を知ることで、今後の友好協力関係もより強固になっていくと思われる。
　※この事業は競輪の補助を受けて実施しました。

子ども達への自転車寄贈(タイ　ナン県)

泉大津市交通安全大会で活動紹介(泉大津市)

タイ料理教室で国際交流(大阪市)

Ⅰ－Ｆ．ﾜｰｸｷｬﾝﾌﾟ・海外ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ視察

１．ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

2016 年度は、4 カ国、12 回のワークキャンプを実施、のべ 212 名が参加した。

1．第 37 回イオン労連カンボジアワークキャンプ
期　間:2016 年 5 月 17 日～5 月 21 日
場　所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区クラウントベア村
参加者:29 名
内　容:井戸建設、交流

2．第 38 回イオン労連カンボジアワークキャンプ
期　間:2016 年 5 月 24 日～5 月 28 日
場　所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区トラペアントム村
参加者:37 名
内　容:井戸建設、交流

3．第 6 回イオン九州労組・マックスバリュ中部労組
カンボジアワークキャンプ
期　間:2016 年 6 月 7 日～6 月 11 日
場　所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区プレイ・パ・エイ村
参加者:21 名
内　容:井戸建設、交流

4．フィリピン、マングローブ植林ワークキャンプ
期　間:2016 年 7 月 1 日～6 日
場　所:ソルソゴン州マトノッグ町
参加者:13 名
内　容:植林、交流

5．イオンリテールワーカーズユニオン
アセアンワーキングセミナー（インドネシア）
期　間:2016 年 7 月 22 日～25 日
場　所:北スラヴェシ州トモホン市パスラテン村
参加者:29 名
内　容:貯水地拡充、清掃、交流

6．第 50 回ネパール国際ワークキャンプ
期　間:2016 年 8 月 6 日～17 日
場　所:シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村
参加者:3 名
内　容:植林、交流、プロジェクト視察

7．第 39 回イオングループ労連カンボジアワークキャンプ
期　間:2016 年 11 月 15 日～11 月 19 日
場　所:タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区ドムナックレアチア村
参加者:19 名
内　容:井戸建設、交流

8．第 40 回イオングループ労連カンボジアワークキャンプ
期　間:2016 年 11 月 22 日～11 月 26 日
場　所:タケオ州トレアン郡ロネアム地区ソピー村
参加者:22 名
内　容:井戸建設、交流

9．第 5 回オムロン労働組合　カンボジアワークキャンプ
期　間:2016 年 12 月 7 日～12 月 11 日
場　所:タケオ州トレアン郡クバブ地区クダイルン村
参加者:21 名
内　容:井戸建設、交流

10．第 51 回ネパール飲料水供給支援ワークキャンプ
期　間:2017 年 2 月 21 日～3 月 1 日
場　所:シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村
参加者:8 名（Salus Aqua）＋3 名
内　容:水道パイプライン建設、交流など

11．第 10 回フィリピン・パロンバネス・ワークキャンプ
期　間:2017 年 3 月 14 日～20 日
場　所:ビコール州パロンバネス島
参加者:7 名
内　容:植林、国際交流

12．京都暁星高校ネパールワークキャンプ
期　間:2017 年 3 月 24 日～3 月 30 日
場　所:シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村
参加者:10 名
内　容:水道パイプライン建設、交流など

2．海外プロジェクト視察

1．ネパール　地震被災者支援事業視察
期　間:2016 年 4 月 15 日～6 月 1 日
場　所:シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村
派遣者:熱田典子、マッラ ラジャン マン
内　容:家屋再建を通した被災者支援
※ジャパン・プラットフォーム助成事業

2．カンボジア　支援事業視察
期　間:2016 年 5 月 21 日～5 月 23 日
場　所:タケオ州
派遣者:横山浩平
内　容:水事業、初等教育普及支援事業、貧困対策事業視察

3．フィリピン　京セラ労組支援事業視察
期　間:2016 年 6 月 27 日～6 月 29 日
場　所:ヌエバエシハ州カビアオ町
派遣者:横山浩平、京セラ労組 2 名
内　容:寄贈井戸視察、交流

4．ネパール　支援事業視察
期　間:2016 年 7 月 27 日～8 月 19 日
場　所:バクタプール郡バゲスワリ村、 ネパールガンジ、
チトワン郡ゴイラコット、カトマンズ周辺　他
派遣者:熱田典子
内　容:ワークキャンプ開催、支援事業視察

5．インド　ユース会議開催、新規案件形成視察
期　間:2016 年 10 月 7 日～10 月 13 日
場　所:カルナータカ州バンガロール県
派遣者:横山浩平

内　容：ユース会議開催、インド新規案件形成視察

6．アジア国際ネットワークセミナー開催、コスモニケタン学園視察
期　間：2016 年 10 月 4 日～10 月 18 日
場　所：カルナータカ州バンガロール県、ビジャヤプーラ県
派遣者：村上公彦、永井博記
内　容：ネットワークセミナー開催、コスモニケタン学園事業視察

7．ネパール　支援事業視察
期　間：2016 年 11 月 8 日～11 月 25 日
場　所：シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村、メラムチほか
派遣者：熱田典子
内　容：ゆうちょ財団「ネパール NGO 活動状況調査」、事業視察、支援事業の実施、長浜北ロータリー現地視察等

8．カンボジア　ユース会議開催、SDGs 会議
期　間：2016 年 11 月 19 日～11 月 22 日
場　所：タケオ州、プノンペン
派遣者：横山浩平
内　容：ユース会議、カンボジア事業における SDGs 打合せ

9．ネパール　京都暁星高校ワークキャンプ事前視察
期　間：2016 年 12 月 1 日～12 月 6 日
場　所：シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村、バクタプール郡
派遣者：京都暁星高校教師 1 名、熱田典子
内　容：ワークキャンプ実施地選定現地調査

10．ネパール　支援事業視察
期　間：2016 年 12 月 22 日～2017 年 1 月 10 日
場　所：シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村、バクタプール郡
派遣者：熱田典子
内　容：プロジェクト視察、環境セミナー実施、栄養補助食品配布

11．ネパール　支援事業視察
期　間：2017 年 2 月 7 日～2017 年 3 月 3 日
場　所：シンドゥパルチョーク郡ボテシパ村、バクタプール郡
派遣者：熱田典子
内　容：バイオガスプロジェクト視察、バイオガスセミナー実施

栄養補助食品（(株)ふじっこ提供）を受け取る子ども達（ネパール）

イオン労連カンボジアワークキャンプにて

イオンリテールワーカーズユニオン・インドネシアアセアンセミナーにて村の人たちと共

日ネ協働作業で設置作業した水道パイプラインのタンクの前で（京都暁星高等学校）

京セラ労働組合フィリピン支援事業視察（フィリピン）

KAFS と学校の先生との相談会（カンボジア）

スラムに住む女性のために毛布の配給（インド）

暴力、性の虐待から子どもたちを守るためのセミナー（インド）

布製の生理ナプキンを初めて手にする女学生（ネパール）

BSVIA スタッフ、学校の先生、生徒の両親との会合（インド）

養蜂による農業支援事業　生産者の技術研修の様子（ネパール）

貯水地の拡充作業に取り組む村人たち（インドネシア）

地域農民と共に植林を続けている森に自生し始めたサイ（ネパール）

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ－Ａ．人材交流・育成事業

１．奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金（奨学金等）を支援。

●フィリピン

ASI　マニラ　4 名

2016 年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）にて行われている夏期の地域開発コース（2 カ月間）に下記 4 名が、参加した。各参加者は、それぞれが所属する本会の現地提携団体の推薦を受け今後の活躍を期待され、このコースに参加が認可されたものである。

- クムンドゥニ・ナシュテ（インド、AFS-Sangli）
- エリサ・タンドゥカール（ネパール、AFS-Nepal）
- アルディーナ・バレーナ（フィリピン、AFS-Pandan）
- ロディーリ・ベラザール（フィリピン、ASI）

本コース終了後、クムンドゥニ・ナシュテは、AFS-Sangli の代表として、マハラシュトラ州ソラプール県サングリ地区の女性の自立支援プロジェクトに従事。エリサ・タンドゥカールは、AFS-Nepal における支援事業にボランティア・ファシリテーターとして農村の人たち同士の架け橋役を担った。アルディーナ・バレーナは、ビサヤ大学大学院の教育経済学部に戻り、修士号取得に励んだ。ロディーリ・ベラザールは、ライフラインクリスチャンスクールにて引き続き教員を務め、フィリピンにおける様々な農村事情を子どもたちに指導している。

●インド

AFS-Nagpur　マハラシュトラ州ナグプール県　1 名

2014 年度に急死した、AFS ナグプールの代表であるフィリップ・パランジャペ氏の長女のリニに看護学校の奨学金を支給した。2016 年度は、ナグプール県内の看護学校内において、最優秀成績をおさめ、県から最優秀成績賞を授与した。

- リニ・パランジャペ（インド、AFS- Nagpur）

２．海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として 2000 年より実施。2016 年度は、本研修への直接の応募はなかったが、以下 2 名がインターンシップとして海外ボランティア活動を実施した。

① 田中 祥子 （大学院入学準備中）
渡航先：インド　マハラシュトラ州／カルナータカ州
渡航期間：2017 年 2 月 3 日～3 月 2 日

② 宮里 真珠 （高校生）
渡航先：ネパール　シンドゥパルチョーク郡　等
渡航期間：2017 年 2 月 21 日～3 月 28 日

研修先の村の学校で水を話をする宮里さん（ネパール）

フィリピン地域開発コースの奨学生たち（前列）

地域開発コースにて（村での実践研修）

Ⅱ－Ｂ．ネットワーク推進事業

１．国際会議

（１）アジア国際ネットワークセミナー

第 26 回アジア国際ネットワークセミナー
開催地:インド、バンガロール、マウリアホテル
期間:2016 年 10 月 8 日～12 日
参加国:インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、ネパール、日本、バングラデシュ、フィリピン、マレーシア
参加者数 48 名
テーマ:回復力ある地域と人の安全を目指して
内容:
開会式 M. R. カムレ(AFS バンガロール代表)
湯川 剛(JAFS 副会長)
村上 公彦(JAFS 専務理事兼事務局長)
基調講演 ディリップ・バルサガデ氏
(インド NGO SPARSH 代表)
タイトル:「地域の女性の包摂支援について」

活動報告 参加 AFS チャプターおよびユース活動報告

テーマ別ワークショップ
① 水衛生と健康
② 土壌、樹木、食物の安全保障
③ 協力企業の連携、仕事、生活
④ 国際協力へのネットワーク形成
⑤ 若者の参加

バンガロール宣言

- AFS の使命である、「貧困なき一つなるアジア共同体」を達成するために精力的かつ効果的に継続されねばならない。
- 私たちの知力と資源は、私たちの支援を必要としている人々に分け与えられねばならない。
- 「貧困なき一つのアジア共同体」使命の浸透を強化し、一歩ずつ確実に実践にうつしましょう。
- 水、衛生と健康、土壌、樹木と食の安全、協力企業との連携、国際協力へのネットワーク形成、若者の参加の活動を継続。
- 国際的友の会を広げていきましょう。

これらの内容は、2017 年度の活動へと引き継がれ、宣言文にて採択された事項の進捗状況に関しては、2017 年度に開催されるネットワークセミナーにて発表されることとなった。

（２）アジア・フレンドシップ夢基金

当基金は AFS/ICO(国際ネットワーク事務局)の事業の一環として本会のアジアにおけるネットワークの求心力を高めるために 2008 年に設立された国際基金。現在アジア 8 ヵ国の各部会が任意に参加している。

2010 年から本会で夢基金という名目で募金世話人会が発足。募金のための世話人会(代表 坂口久代理事)を設けて国際基金募金に協力している。2016 年度は、7 月、9 月、1 月、3 月に世話人会例会を持った。2016 年度募金高は、405,700 円。その内、 300,000 円(2016 年度分担分)を国際基金に繰り入れた。

なお、国際基金管理委員会(委員長 T・プラモド、8 ヵ国 12 人の委員)は毎年一回会合をアジア国際ネットワークセミナー(AINS)に合わせて開いている。

（３）アジア・ユースサミット（ＡＹＳ）

2016 年度は、本会のインド、カンボジアにおける活動地域の若者を集め、リーダーシップ研修を実施し、参加者自らが次世代の地域のリーダーとなり、地域を変えていくための意識づけをするきっかけづくりを行った。

1. インド・バンガロールユース会議
開催地:カルナータカ州バンガロール県
期 間:2016 年 10 月 7 日～10 日
目 的:AFS ネットワークにおけるユースの位置づけ
各国における支援事業とユースの活動を統合
AFS におけるユースリーダーを定義づけ
参加者:インド(3)、ネパール(3)、インドネシア(1)
日本(1)合計 8 名
内 容:
グループディスカッション
- AYS の経験を通したリーダー像とは何か
- AFS においてユースリーダーとはどのような役割があるのか？
- ネットワークとは？ユースにおけるネットワークとは？

以上の内容について話し合い、2017 年 10 月 8 日開催の第 26 回アジア国際ネットワークの報告の場を借り、話し合った内容についてまとめ、下記の発表を行った。

ユースリーダーの役割とは、持続可能な社会構築という社会的最大の課題に対して自らの地域社会における持続可能性を十分に調査し、課題解決に向けた行動計画を考え、企画し、地域の人々の参加を促し、チームを作り、率先して行動することである。

ユースリーダーは、自らがその課題に対して行動する動機と責任感を常に持ちつづけることが必要であり、AYS 開始当初からこれからもずっと AFS の中においても自らが率先してユースチームを作り、AFS 内で取り組まれている様々なプロジェクトに参加し、学び、問題解決に一翼を担い、持続可能な社会づくりを達成したいと願っている。

2. カンボジア・タケオ州ユース会議
開催地:タケオ州トレアン郡プレイスルック地区
期 間:2016 年 11 月 20 日

目　的:現代のカンボジアにおける若者の役割
　　本会のカンボジア事業とユースの行動の統合
　　ユースリーダーの定義づけ
参加者:カンボジア(13)、日本(1)合計 14 名

内容:
　アジア里親の会を通して支援されている高校生で、持続可能な社会構築や農村開発、ユースリーダーに関心を持つ若者 10 名を一同に集め、上記の目的の下、会合を行った。彼らは、このような会議に参加するのが初めてであり、慣れない環境の中、仲間と共に自らがユースリーダーとして起こすべき行動は何かの話し合いやリーダーシップについての議論を行った。
　話し合いの結果、彼らは、リーダーとして、今後タケオ州の持続可能な社会実現を妨げている貧困の問題に対して、以下のように取り組むことを宣言した。

- 自分よりも更に貧しい人たちに手を差し伸べ、農業の種を与え、米や野菜を育て、販売をし、販売収益から更に多くの貧しき人たちに種を与え、農業にて生活が出来る地域を作ること。
- タケオ州を教育第一地区とし、農村の学校に道徳や偉人伝などの本を集め、自らよりも若い人たちを図書と共に勉強させ、最も知識のある地域へと変えるために行動する。

今後も上記のような AYS に参加した若者や地域の若者に対して積極的に本会からアプローチを行い、常に彼らの気持ちや行動を注視すれば、彼らがより一層成長していくとの確信を持つことができた。

２．国際体験交流（スタディーツアー等）

アジアにおける本会海外プロジェクト視察や、アジアの現状に対して足を運び実感するスタディーツアー等を通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。
2016 年度は、4 ヵ国 49 名が、スタディツアーに参加。フィリピン、アンティーケ州パンダン町に設置されたパンダンパイプラインが、開設 20 周年、インドにて長年支援をしている日印友好学園コスモニケタンが開校 20 周年を迎え、往年の支援者と共に長年の功績を祝うことができた。また、ネパールにおいて、ジャズピアニストの竹中真氏が、チャリティコンサートを実施する新たな試みが実現した。

UA ゼンセン宮城県支部　フィリピンストリートチルドレン支援スタディツアー　(フィリピン)
期　間:2016 年 4 月 7 日～4 月 9 日
場　所:カビテ州ダスマリナス町パリパラン
参加者:12 名
内　容:ストリートチルドレン教材支援、交流

フィリピン・スタディツアー(フィリピン)
期　間:2016 年 6 月 7 日～6 月 10 日
場　所:マニラ市サン・アンドレス、カビテ州パリパラン
参加者:4 名
内　容:ストリートチルドレンの教育支援事業視察・交流

第 14 回フィリピン・パンダン国際親善ツアー(フィリピン)
期　間:2016 年 10 月 24 日～10 月 29 日
場　所：アンティーケ州パンダン町他
参加者:10 名
内　容:パンダンパイプライン通水 20 周年記念

インドネシア・交流訪問ツアー(インドネシア)
期　間:2017 年 1 月 24 日～1 月 28 日
場　所:バリ島
参加者:3 名
内　容:ディアナプラ大学訪問、交流

ネパール・竹中真ジャズチャリティコンサート＆スタディツアー
期　間:2017 年 2 月 7 日～2 月 17 日
場　所:カトマンズ、バクタプール郡、ｼﾝﾄﾞｩﾊﾟﾙﾁｮｰｸ郡　等
参加者:7 名
内　容:チャリティコンサート実施、支援事業視察、交流

インド・コスモニケタン学園 20 周年記念ツアー(インド)
期　間:2017 年 2 日 19 日～2 月 26 日
場　所:カルナータカ州ビジャヤプーラ県、バンガロール
参加者:13 名
内　容:コスモニケタン学園 20 周年記念式典参加、
　　支援事業視察、交流

第 26 回アジア国際ネットワークセミナーグループディスカッション

AFS バンガロールチャプター発足(第 26 回アジア国際ネットワークセミナーにて)

Ⅱ．国際交流事業

村の若者のユース会議（カンボジア）

コスモニケタン学園 20 周年記念式典に

過去の AYS 参加者と共に（バンガロール会議）

パンダンパイプライン通水 20 周年記念ツアー

UA ゼンセン宮城県支部からフィリピン・スタディツアーの参加者と
子どもたちとの交流

地震の傷跡残る世界遺産の様子をチャリティコンサートの合間に
視察（ネパールツアー）

Ⅳ. 普及啓発事業

Ⅳ－Ａ. 地域広報活動事業

1. 本部活動

（１）JAFS チャリティバザール

今年度も、恒例になっている春と秋の JAFS チャリティーバザールを JR 住道駅前北側のデッキ広場で開催した。大東市の市報を通じて、参加者を募り、バザールだけでなく、本会の活動を知る機会を作った。その他、地元のミュージシャンやダンサーがパフォーマンスを披露し、それを楽しみに参加する人たちも増えた。

この他、毎年 12 月に開催していた本会支援者同士の交流会「JAFS The Party」を「アジアン・チャリティパーティ」と改め、本会の支援者、在阪外国人などの参加者を集め、チャリティパーティを開催し、本会の支援者、在阪外国人、一般参加者との交流を通したチャリティ募金活動を実施することが出来た。

＜春の JAFS チャリティバザール＞
日　時:2016 年 4 月 29 日(祝)10:00～16:00
出店数:28 店　(39 ブース)

＜秋の JAFS チャリティバザール＞
日　時:2016 年 10 月 23 日(日)10:00～16:00
出店数:26 店　(36 ブース)

＜アジアンチャリティフェスティバル＞
日　時:　2016 年 12 月 10 日(土)　10:00～19:00
場　所:　金光教玉水教会　　参加者数:486 人

（２）　国際理解教育講座

NGO が学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2016 年度も NGO 活動を通した学校や団体の国際協力参加について様々な講義・研修を行った。特に韓国の国際協力機構がボランティア体験として本会と協力し、地域の清掃や国際理解授業を行ったのは、興味深い体験であった。

NGO 講師派遣　　【のべ 11 ヵ所、587 名】

6 月 17 日　ノートルダム女学院高等学校　授業　(20 名)
「日本の国際協力アジア協会アジア友の会の活動」
7 月 10 日　大阪キリスト教短期大学　授業　(25 名)
「アジア協会アジア友の会の活動」
6 月 9 日　大精教看護専門学校　文化人類学
「国際理解授業」　(38 名)
6 月 10 日　大精教看護専門学校　文化人類学
「国際理解授業」　(38 名)
6 月 23 日　大精教看護専門学校　文化人類学
「国際理解授業」　(38 名)
9 月 28 日　ジャパン・プラットフォーム活動報告会　登壇
(70 名)「熊本地震・次に求められていることとは」
10 月 21 日　東大阪市立縄手中学校国際理解授業　(34 名)
「ネパールの子ども達の現状から水を考える」
11 月 10 日　大阪ボランティア協会　講義(22 名)
「CSR・社会貢献基礎研修 2016」
12 月 3 日　綾部市立志賀小学校　講義　(80 名)
「水と教育と生きる権利」
12 月 12 日　枚方市立蹉跎中学校国際理解授業(85 名)
「ネパールの文化と子どもたちの現状」
2017 年
2 月 6 日　高齢者大学　講義　(17 名)
「アジア協会アジア友の会の活動」カンボジア編
2 月 17 日　大阪 YMCA 国際専門学校高等課程 i-COSY 講義(8 名)「本当に国際開発は必要なのか？」
3 月 10 日　ふらっとねやがわ　講演会　(30 名)
「ネパール大地震の復興支援活動から見えた女性の自立」
3 月 14 日　帝塚山学院小学校　国際理解授業(120 名)
「ネパールの暮らしとこどもの現状」

授業受け入れ　　【4 校　71 名】

6 月 24 日　松原高等学校　国際理解授業(16 名＋教員 1 名)
(「世界の子どもの状況(児童労働、ストリートチルドレン)」グループ学習発表)
11 月 8 日　大阪私学人権研究にんげん研究会フィールドワーク(教員 32 名)
「NGO とは／ アジアの子ども達の現状とネパール地震支援活動
12 月 8 日　大手前高等学校　国際理解授業(集中セミナー)
(8 名＋教員 1 名)
「NGO の現状と活動／私たちの暮らしと国際支援との相互性」
2017 年
1 月 11 日　韓国 NGO アジア希望キャンプ機構
(10 名＋コーディネーター1 名)
環境保全活動(江戸堀周辺の清掃活動)
ぞうすいの会(体験)
国際理解授業「アジア協会アジア友の会の活動紹介」

（３）アジア文化理解講座

一般の人が国際協力を身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

◆アジア家庭料理教室◆

2016 年度はアジア 13 地域 21 回のアジア家庭料理教室を行い、のべ 316 名の参加を得た。

会　場:クレオ大阪西　調理室

4 月 12 日、21 日　フィリピン　参加者 27 名
講師:ビーナ　ジードル氏
5 月 17 日、26 日　沖縄　参加者 27 名
講師:上原スミ子氏、堀本美代子氏
6 月 14 日、23 日　ネパール　参加者 27 名
講師:　シャルマ　クルシュナ氏
7 月 12 日、28 日　ベトナム　参加者 29 名
講師:　ブイ　タン　ハン氏
8 月 22 日　中国新疆ウイグル自治区　参加者 23 名
講師:ジャミラ　ウライム氏
9 月 6 日、15 日　イラン　参加者 25 名
講師:ダリア　アナビアン氏
10 月 4 日、20 日　タイ　参加者 29 名
講師:村木タッサニー氏
11 月 8 日、17 日　インドネシア　参加者 25 名
講師:ワヤン　スカルミニ氏
12 月 13 日　中国内モンゴル自治区　参加者 14 名
講師:劉偉氏
1 月 17 日　広東　参加者 19 名
講師:陳舒慧氏、羅暁玲氏
2 月 2 日　韓国　参加者 14 名
講師:安　治永氏
3 月 7 日、23 日　インド　参加者 35 名
講師:ナゼマ　トラバリー　氏
3 月 11 日　スリランカ　参加者 22 名
講師:ラックスマン　フェルナンド　氏

（4）インターンシップ プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入　【2 校 4 名】

◆神戸学院大学 （2 名）
「総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科　ヒューマンサービス実習」の受け入れと指導。2 名の学生が 24 日間の実習をおこなった。事務所での事務作業の補佐及びチャリティーイベント、地区活動での実習をおこない、市民活動の内容を学び報告会をもって実習修了とした。

6 月 22 日　実習オリエンテーション
8 月 23 日～12 月 26 日　実習期間
2017 年 2 月 3 日　実習報告会

◆甲南女子大学 （2 名）
「文学部　多文化コミュニケーション学科　ボランティア・インターンシップ体験演習Ⅲ」の受け入れと指導。2 名の学生が 6 月 23 日より実習をおこなった。水支援、教育支援の事務作業、地域活動での実習を通して実施事業の理解を深め、最終的には現地の小中学生が環境に関して学んでいくためのテキスト作りをおこなった。

6 月 14 日　実習オリエンテーション
6 月 23 日～3 月 25 日　実習期間

（5）法人関連プログラム

本会の長年のアジアの支援現地における活動の蓄積と現地のネットワークを生かして、法人を対象に、アジア経済や地域開発の専門家などからのセミナーを行い、人材を育成するプログラム。2015 年度から「国際貢献型グローバル人材育成プログラム」と題して、2016 年度は合計 2 回のセミナーを行なった。

◆国際貢献型グローバル人材育成支援プログラム◆
1. 第 5 回国際貢献型グローバル人材育成支援セミナー＆交流会
テーマ　スリランカとの互恵ビジネス構築の為に
～スリランカの社会と経済事情について～
日　時　2016 年 4 月 8 日（金）
会　場　がんこ和食梅田本店
主　催　JAFS 法人賛助会
協　力　大阪国際フォーラム
参加者　22 名
内　容　1. スリランカ経済、社会事情について
～ その現在、過去、及び、経済発展の未来 ～
講師　D.D.プレマラトナ氏
（スリランカ大使館　公師参事官）

2. スリランカ人から見た日本、日本人とは
～スリランカと日本両国の WIN WIN の関係つくりを目指して～
講師　サマン・ペレラ氏
（HANTHANA Group オーナー
奈良商工会議所青年部所属）

2.第 6 回国際貢献型グローバル人材育成支援セミナー＆
晩餐交流会
テーマ　東南アジアの親日国カンボジアの可能性を知ろう！
～在カンボジア王国名誉領事館山田英男名誉領事を囲んで～
日　時　2017 年 2 月 16 日（木）
会　場　名家　華中華　ハービスエント
主　催　JAFS 法人賛助会
協　力　大阪国際フォーラム
参加者　37 名
内　容1. “アジアの首都”大阪を目指して～アジア諸国との交流で関西の活性化を～
講　師　宮野谷　篤氏
（日本銀行大阪支店　支店長）
基調講演 「カンボジアでのビジネスを通して」
講　師　山田英男
（在カンボジア王国名誉領事館カンボジア名誉領事）

3. 第 6 回　法人賛助会世話人会
日時　2016 年 4 月 22 日（金）　午後 6:00～20:00
場所　レストラン　カステロ、ホテルアウィーナ大阪
卓話　カンボジアを訪問して
1. 出口貴之氏
2. 毛利吉男氏

4. 第 7 回　法人賛助会世話人会
日時　2017 年 2 月 7 日（火）　午後 6:30～20:00
場所　レストラン　カステロ、ホテルアウィーナ大阪

（6）関連プログラム／その他団体協力

◆（特活）関西 NGO 協議会
加盟し、理事として運営に関わった。各種催しに出席、協力活動を行った。特に、副代表理事として常任理事会に関わり、調整業務も協力を行っている。

◆(特活)関西国際交流団体協議会

1) 加盟し、理事として協力活動を行っている。

2) ワン・ワールドフェスティバル 2016

1993 年より毎年大阪で開催、今年 23 回目を迎えた。関西の NGO、NPO、国際機関、企業などが参加し、国際協力・交流活動を幅広く紹介するとともに、参加者が地球規模の課題に対して行動するきっかけの場となることを目的としている。本会は実行委員会の一員として、活動紹介展示、民族料理屋台、企画プログラムにて参加協力した。

期　間:2017 年 2 月 4 日(土)、5 日(日)
場　所:関西テレビ、扇町公園周辺
来場者:25,000 名(2 日間のべ人数)
主　催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
参加内容:NGO 活動紹介ブースにて来場者を対象に活動紹介と各種ボランティア募集の告知とアジアングッズの販売を行った。

◆公益財団法人自治体国際化協会

アドバイザーとして協力活動を行っている。

◆公益財団法人大阪府国際交流財団

評議員として評議員会出席。協力活動を行っている。

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)

正会員として加盟し、協力活動を行っている。「グローバルフェスタ JAPAN2016」は、国際協力をより身近なものに感じるとともに、国際協力の現状・必要性などについての理解と認識を深めることを目的としたイベント。「グローバルフェスタ」には 2007 年より JAFS 関東が参加している。そのほか、緊急支援募金を通して熊本地震被災者支援事業の寄付金を得た。

◆認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。2016 年度は、熊本地震被災者支援として 4 度の助成を受け、ネパール地震被災者支援事業において 1 度の助成金を得ることができ、迅速かつ効果的な支援ができた。また、熊本地震の被災者支援実施地選定に対して、円滑にコーディネートしてくださった上、モニタリングに来て、評価をいただくことができた。加えて、2016 年 9 月 28 日の JPF 主催の熊本支援事業活動報告会においては、本会スタッフ 2 名が招聘され、1 名が登壇し、相互に協力することが出来た。

◆ネパール NGO ネットワーク(4N)

加盟し、協力活動を行っている。

◆一般財団法人 H_2O サンタ

2016 年 8 月 17 日～22 日第 4 回 H_2O サンタ NPO フェスティバルに参加し、募金は、本会の井戸建設事業へと充てられた。

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動や理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し地域の催しにも協力しながら活動をした。

第 1 エリア:　大阪府北部、兵庫県東北部
第 2 エリア:　大阪府東部
第 3 エリア:　大阪市内
第 4 エリア:　大阪府東南部、和歌山北部
第 5 エリア:　京都府、滋賀県
第 6 エリア:　兵庫県
第 7 エリア:　奈良県、東大阪、八尾、新宮市
第 8 エリア:　大阪府西南部
第 9 エリア:　西日本
第 10 エリア:　東日本
第 11 エリア:　東海、北陸・甲信越等

（1）エリア幹事会・地区活動推進委員会

2016 年度は、新たに設けられた地域の役員(地区世話人)を中心に、エリア幹事会を開き活動を進めていった。

◆会員拡大地域活動推進委員会　計 8 回　のべ 131 名が参加
定例会:　4 月 12 日、5 月 10 日、7 月 12 日、9 月 13 日、10 月 25 日、12 月 6 日、2 月 14 日、2 月 18 日

◆エリア幹事会　計 14 回　のべ 162 名が参加
定例会:　4 月 20 日、5 月 31 日、6 月 14 日、6 月 28 日、7 月 12 日、8 月 23 日、9 月 13 日、9 月 27 日、10 月 18 日、11 月 8 日、12 月 6 日、1 月 17 日、2 月 14 日、3 月 21 日

（2）地区世話人一覧

エリア	地区	氏名
1	尼崎	天野澄子、黒谷侑子、竹内泰子
	池田	石原基義、勘山　悟、近藤秀子、近藤允伸
	吹田	江守　猛、杉原　貴、中西武雄
	高槻	佐々寿子、内藤　肇、西川龍夫、桝田敏弘
	豊中	大谷利恵子
	箕面	平瀬勢丈
2	門真	友松千草
	四條畷	青木洋介、小柳二郎
	寝屋川	笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、畠山ひろみ
	枚方	明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
	守口	真田朱美、二野英子
3	なにわ東	稲垣三千穂、奥　眞里子
	なにわ西	風早正夫、風早茂都子、落合朋子、喜多富美、篠塚達朗、福岡好嗣
	なにわ南	北谷俊貴、中西豊次、實　清隆、巽　正憲
	なにわ北	塩尻昭枝、豊田祥二
4	河内長野	今井利子、新谷百代、丸井和子
	藤井寺	森　わか子
	松原	橋本末子、六車勝三
	美原	田中千鶴子、中嶋啓子
	羽曳野	サルマ　クルシュナ
	大阪狭山	藤間孝子
	河南町	橋本洋一

	富田林	沖田耕一、沖田哲男、真嶋克成
5	宇治	柿木良昭、櫻屋敷寛子、杉林則子、田中紀代三
	京都市	菅 洋子、高田晃宏
	野洲	深田陽一
	八幡	福川 粛
6	三田	芝野照久、堀 正之
	西宮	岡田 昂、小谷牧子、斎藤公江、平山隆史
	神戸	鈴木誠也
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
	芦屋	岩﨑準一
7	生駒郡	林 昭宏
	生駒市	有山加代子、石橋演子、山田いづみ、山田穂積
	奈良市	サマン ペレラ、高以良泰治、東久保勝彦、福岡名津子、渡邉瑠璃子、野口明英
	東大阪	坂上やよひ、末永雅典、南野紀美子
	八尾	日下千代子、橋本隆
	新宮	瀧野秀二、中西 洋
8	高石	佐藤満昭
	堺	幾谷眞規子、久保幸子
	田辺	小森茂之
9	広島	宇田和博
10	東京	川崎隆二、長谷川雅子
11	愛知	壁谷桂子、清水三千夫

（３）第１エリア

【尼崎】天野澄子、竹内泰子、黒谷侑子【池田】石原基義、勘山悟近藤秀子、近藤允伸【吹田】中西武雄、杉原貴、江守猛【高槻】西川龍夫、桝田敏弘、佐々寿子【箕面】平瀬勢丈【豊中】大谷利恵子

1. 2006 年から現在までの第 1 エリア支援プロジェクト実績
   2014 年度より支援プロジェクト地域:インド・ガッチロリ・ムスカ村とし健康増進、衛生環境改善のための「健康カード」作成用 300,000 円を支援。
   ① 2016 年度は診療所開設資金 400,000 円必要のところ 250,000 円を支援し、次年度に残額を引き継いだ。

2. 2016 年度プロジェクト支援のためのチャリティ活動
   2016 年
   5 月 5 日 中山寺子供フェスティバル参加
   場所:中山寺 参加:25 名
   募金額 135,633 円
   7 月 10 日 七夕まつり参加
   場所:豊中駅前 参加:9 名
   募金額 55,764 円
   8 月 12 日 豊中まつり参加
   場所:手島公園 参加:10 名
   募金額 100,224 円
   11 月 26 日グリーンベイ大阪 食事提供
   場所:堺第 7－3 地区 参加:3 名
   募金額:28,803 円
   12 月 10 日アジアンチャリティフェスティバル参加
   場所 :金光教玉水教会 参加:5 名
   募金額:14,000 円
   12 月 23 日平岡神社笑福祭り 参加
   場所:平岡神社 参加:5 名
   募金額:16,775 円
   2017 年
   1 月 21 日 第 1 エリア新年会開催
   場所:霊松寺 参加:27 名
   募金額:14,600 円

●地区会開催
尼崎、箕面、豊中地区にて
2016 年(4 月、5、月、6 月、12 月、2017 年 1 月、3 月)

高槻・島本地区にて
2016 年
8 月 20 日 高槻・茨木・摂津地区立ち上げ懇親会
10 月 8 日 第 12 回たかつき NPO 協働フェスタ パネル展示
アジアン雑貨チャリティ販売
12 月 10 日 アジアンチャリティフェスティバル出店参加
場所: 金光教玉水教会 参加:5 名
2017 年
1 月 21 日 第1エリア新年会参加 場所:高槻 霊松寺
3 月 2 日 防災研修会 備えと構えで減災を！」
協働プラザ主催に参加
3 月 31 日 NPO と行政の協働 今こそ、必要」
協働プラザ主催に参加
＜定例会＞毎月第月曜日(13 時半～15 時)計 7 回
場所:高槻市クロスパル

（４）第２エリア

【第 2 エリア合同】
2016 年
11 月 26 日 大谷タカコ先生 平和大賞受賞記念講演会
“生命を育む“ (JAFS 本部との共催)
場所:寝屋川市立市民会館小ホール
参加:150 名
実行委員会:9 月 16 日、10 月 11 日、11 月 2 日、12 月 16 日
募金・協力金(募金額 66,084 円)をネパール母子保健事業へ充てることができた。

＜植林実行委員会 “JAFS 北河内 緑とふれあう会” ＞
会長:佐々木実、副会長:笠谷正博、虫明慧悟、会計:天野由紀代、書記:吉田幸子
2016 年
4 月 9 日 ①防草マルチ張り②里芋の植付③生姜の植付④春野菜の整理⑤草引き他 参加:12 名
4 月 23 日 ①じゃがいもの間引きと土寄せ ②玉ねぎ畑の草取り③野菜の種蒔き、苗の植付 ④籾殻搬入他 参加:9 名
5 月 12 日 ▲御殿山神社紫陽花の下草刈り 参加:6 名
5 月 14 日 ①田んぼの畔塗り ②枝豆・三度豆・トウモロコシ・ミニトマトの移植植え付け ③葉野菜の収穫④草引き他)参加:9 名
5 月 25 日 玉ねぎの収穫 参加:6 名
5 月 28 日 ①玉葱の収穫 ②周囲の草引き ③野菜の種蒔き④田植えと紫陽花まつりの段取り他
6 月 4 日 田植え
参加:25 名(大人 17、小学生 2、幼児 6)

6 月 11 日　①さつまいも畑のマルチ張り　②さつまいもの植付　③田んぼの施肥他　参加:8 名
6 月 14 日　▲御殿山神社紫陽花植樹の下穴掘り＆紫陽花の手入　参加:6 名
6 月 16 日　▲紫陽花の苗の準備
6 月 18 日　▲御殿山神社紫陽花植樹　参加:6 名
6 月 25 日　①サツマイモの植付　②野菜の収穫　③草引き他　参加:9 名
6 月 27 日　ジャガイモの収穫 参加:5 名
7 月 16 日　草引き　参加:6 名
7 月 23 日　①前回の残りの草引き　②ジャガイモ畑の耕運　③花壇と野菜畑の草引きと耕し他　参加:9 名
8 月 13 日　①田んぼの草取り　②秋野菜畑の整備　③秋野菜の品種剪定他　参加:6 名
8 月 27 日　①田んぼの草取り　②畑の草取り　③秋大根の種蒔き　④ほうれん草の種蒔き他
9 月 10 日　①秋野菜の種蒔き　②草取り他
9 月 24 日　①大根の間引きと肥料やり　②冬取大根の種蒔き　③草引き他　参加:9 名
10 月 8 日　①大根の間引きと肥料やり　②みかんの支柱建て　③野菜の移植　④稲刈りの段取り　⑤野菜の間引き　⑥草取り他　参加:9 名
10 月 16 日　稲刈り　参加:9 名
10 月 22 日　①年末野菜の種蒔き　②韮畑の整備　③南側の草取り他　参加:11 名
10 月 27 日　小柳会員宅剪定作業(ボランティア　参加:7 名)
10 月 30 日　芋ほり＆収穫祭
参加:26 名(大人 18＋中・小学生 5＋幼児 3)
11 月 12 日　①籾殻運び　②玉ねぎ畑の耕運　③みかんの味見・収穫　④野菜への施肥他
参加:12 名
11 月 19 日　①葱の植付け　②みかん狩り他　参加:8 名
11 月 24 日　ミカンの収穫
11 月 30 日　ミカンの収穫
12 月 7 日　ミカンの収穫
12 月 10 日　①田んぼの畝の整理　②玉ねぎ畑へのマルチ張り　③玉葱への施肥　④みかんの収穫　⑤大根の一部収穫他
12 月 24 日　お正月野菜の収穫
2017 年
1 月 14 日　①大根、小松菜等の収穫　②菜野菜の移植　③みかんの手入れ他　　参加:9 名
1 月 28 日　①野菜用畑の起耕　②野菜の収穫　③神社アジサイ寒肥作業　④草引き他　参加:6 名
2 月 10 日　▲御殿山神社紫陽花の寒肥入れ　参加:6 名
2 月 11 日　①玉ねぎ畑の草引き　②玉ねぎへの施肥　③大根の収穫と起耕　④草引き他　参加:6 名
2 月 25 日　①桜島大根の収穫　②ジャガイモの畝作り　③マヌカの植付け　④野菜の収穫　⑤草引き他
参加:6 名
3 月 11 日　①ジャガイモの植付け　②大根・枝豆等の種まき　③総会の打合せ　④草取り他　参加:8 名
3 月 25 日　総会

※第 2、第 4 土曜日の午前中を定例作業日とする。
　その他当番制の水やり作業、必要に応じての農園臨時作業(▲で記載)、備品設置作業等、有り。

【守口】真田朱美、二野英子
2016 年
4 月 6 日　例会
4 月 9 日　桜まつり　チャリティ参加
場所:下島公園
4 月 29 日　JAFS 住道バザール　チャリティ参加
場所:住道駅前デッキ
5 月 5 日　例会
5 月 7 日～8 日　守口市だんじり祭り　チャリティ参加
場所:カナディアンスクエア
5 月 28 日　「100 円市」チャリティ参加
場所:橋波商店街
6 月 11 日　例会
7 月 6 日　例会
7 月 30 日　夜市　チャリティー参加
場所:橋波商店街
8 月 6 日～7 日　一泊懇親旅行　　場所:洞川温泉
9 月 7 日　例会
9 月 24 日　「100 円市」チャリティ参加
場所:橋波商店街
10 月 5 日　例会
10 月 9 日　フリーマー　チャリティ参加
場所:橋波商店街
10 月 23 日　JAFS 住道バザール　チャリティ参加
場所:住道駅前デッキ
11 月 2 日　例会
11 月 6 日　市民祭り　チャリティ参加
場所:京阪デパート前
11 月 19 日　商業祭り(ダンスの力)チャリティ参加
場所:カナデアン　スクエア
11 月 20 日　国際交流フェスティバル　チャリティ参加　場所:カナデアン　スクエア
11 月 26 日　忘年会
2017 年
1 月 7 日　餅つき大会　　場所:事務所ガレージ
1 月 9 日　大宮恵比寿参拝
1 月 28 日　「100 円市」チャリティ参加
場所:橋波商店街
2 月 1 日　例会
2 月 26 日　フリーマーケット　チャリティ参加
場所:橋波商店街
3 月　1日　例会
3 月 19 日　フリーマーケット　チャリティ参加
場所:橋波商店街

【枚方】明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
2016 年
4 月 10 日　第 10 回枚方ティーサロン
「インド洋に浮かぶ光り輝く島スリランカを訪ねて」 話:手嶋寛、村口ミヨ子、船戸尚子、船戸康夫　場所:枚方市津田生涯学習市民センター3F 料理室
6 月 13 日　ネパールティーサロンと親睦会(第 2 エリア合同企画)話:オーム・タンドゥカール、熱田典子
場所:楽寿荘　(親睦会会場はインド・ネパール料理店ニサン)
8 月 20 日～21 日枚方まつり　模擬店参加
20 日　「ネパールへのかけ橋」として
21 日　「枚方地区会」として

場所：枚方市駅前岡東中央公園
9 月 11 日　枚方 NPO フェスタ　模擬店参加
場所：枚方市駅前岡東中央公園
11 月 13 日　寝屋川・枚方の歴史をめぐるウォーカソン（第 2 エリア合同企画）
京阪枚方市駅⇒旧田中邸むくの木⇒意賀美神社⇒本陣跡⇒枚方宿鍵屋資料館⇒西見附⇒明治 18 年洪水碑⇒水面回廊⇒出口ふれあい公園（昼食）
⇒光善寺⇒蓮如上人の腰掛石⇒淀川堤防⇒赤井堤記念碑⇒鞆呂岐神社⇒京阪香里園駅
11 月 26 日　大谷タカコ先生平和大賞受賞記念講演会（第 2 エリア合同企画）「生命（いのち）を育む～助産師半世紀の軌跡～」
話：大谷タカコ先生
場所：寝屋川市立市民会館1F小ホール
12 月 4 日　寝屋川多文化フェスティバル　（協力参加）
場所：寝屋川市立市民会館
2017 年　寝屋川バルーンフェスティバル　（協力参加）
2 月 19 日　場所：寝屋川市立第五中学校

※地区世話人会　5 月 30 日、9 月 5 日、3 月 17 日
以上の活動よりネパールへ井戸 1 基を寄贈する準備ができた。

【寝屋川】笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、畠山ひろみ
2016 年
4 月 24 日　地区定例会　場所：市民活動センター
5 月 29 日　地区定例会　場所：市民活動センター
6 月 13 日　第 2 エリアぞうすいの会（ティーサロン）
「ネパールの現在とこれから」
お話：オーム・タンドゥカール　熱田典子
場所：枚方・楽寿荘
7 月 9 日　市民活動センターふれあいフェスタ
活動展示参加　場所：市民活動センター
7 月 31 日　地区定例会　場所：市民活動センター
8 月 28 日　地区定例会　場所：市民活動センター
9 月 25 日　地区定例会　場所：市民活動センター
11 月 6 日　地区定例会　場所：市民活動センター
11 月 8 日　枚方・寝屋川合同ウオーカソン
「枚方の歴史をめぐるウオーカソン」
場所：枚方市
11 月 23 日　ふらっとねやがわまつり
活動報告・活動展示　場所：ふらっとねやがわ
2017 年
2 月 19 日　ハッピー・バルーンフェスティバル
チャリティー模擬店　場所：市立第 5 中学校
3 月 12 日　地区定例会　場所：市民活動センター
以上の活動によりネパールへバイオガス 2 基を寄贈準備ができた。

（５）第３エリア

【大阪市なにわ東】奥眞里子
2016 年
5 月 23 日　なにわ東地区打合せ会　参加：4 名
場所：インド料理店 ARUNA（アルナ）
5 月 26 日　アーユルヴェーダの講演　参加：7 名
場所：城東区民センター
7 月 27 日　第 1 回アジアンパーティ　参加：14 名
場所：奥眞里子会員宅
9 月 21 日　第 2 回アジアンパーティ　参加：10 名
場所：奥眞里子会員宅

【大阪市なにわ西】篠塚達朗、落合朋子、風早正夫、風早茂都子、喜多富美、福岡好嗣
2016 年
6 月 18 日　まいど！大阪おもしろツァー　参加：38 名
[ジャカランダの花と古代文化の地、四天王寺界隈を訪ねる]
6 月 25 日　熊本震災復興支援プログラム　参加：11 名
「地震発生時の対応をまなびましょう」
於：津波・高潮ステーション（西区阿波座）
10 月 15 日　おいで！関西ほのぼのツァー　参加：15 名
「京の秘密空間をゆく」
12 月 3 日　まいど！大阪おもしろツァー
参加：27 名
「知ってはる？大阪で一番古い歴史を持つ桑津の街」
2017年
1 月 7 日　おいで！関西ほのぼのツァー
参加：13 名
「阪急三福参りと宝塚のみち散歩」
＜定例会＞　毎月、JAFS 事務局にて定例会を開催（合計 11 回）

【大阪市なにわ南】中西豊次、實清隆、巽正憲、北谷俊貴
2016 年
4 月 19 日　なにわ南地区打合せ　参加：3 名
場所：JAFS
4 月 28 日　なにわ南地区会　参加：18 名
「カンボジアを訪ねて」海外出店希望
現役飲食店オーナーが語る
講話者：法人賛助会員
（株）カステロ代表取締役社長
毛利吉男氏
場所：阿倍野区レストラン「ふきのとう」
7 月 14 日　なにわ南地区会
大学生が語る「私とアジアと未来」
（月 1 万円で暮らす若者たちの挑戦）
講話者：京都外国語大学　国際教養学部
阿比留高広氏・李天鯨氏
場所：天王寺区民センター
2017 年
3 月 1 日　なにわ南地区幹事会
瀬田敦子チャリティコンサートに向けて
場所：天王寺区タイ料理オッソ
3 月 9 日　瀬田敦子チャリティピアノコンサート参加：130 名
場所：阿倍野区民センター

【大阪市なにわ中央】稲垣三千穂
2016 年
9 月 21 日　アジアンパーティー
場所：稲垣会員宅

（6）第４エリア

【河内長野・大阪狭山市】今井利子、藤間孝子、新谷百代、丸井和子

2016 年
10 月 20 日　アジアンホームパーティ
インドカレー＆インド舞踊　参加:16 名
場所:モダカ

2017 年
1 月 23 日　地区会＆瀬田敦子ピアノコンサート打合せ
参加:6 名　場所:モダカ
2 月 6 日　地区会　参加者:6 名　場所:モダカ
3 月 8 日　瀬田敦子ピアノコンサート準備会
参加:4 名　場所:ラブリーホール
3 月 14 日　瀬田敦子ピアノコンサート　参加:51 名
場所:ラブリーホール
3 月 23 日　瀬田敦子ピアノコンサート報告会
参加:5 名　場所:モダカ

【南河内】橋本末子、橋本洋一、森わかこ、六車勝三、サルマ

2016 年
7 月 28 日　1/22 国際協力＆異文化交流パーティin 松原の打合せ　場所:インドカレー店 「プジャ」
9 月 24 日　松原第 4 中学校区フェスタ（三宅小学校児童会） 場所:松原第 4 中学校
9 月 29 日　国際交流おしゃべりの会　参加:9 名
場所:恵我ノ荘　田中邸
10 月 29 日　阪南大学学園祭出店参加　参加:4 名
10 月 30 日　阪南大学学園祭出店参加　参加:4 名
場所:阪南大学
10 月 5 日　松原第 3 中学校区ヒューマンタウンフェスタ
参加:33 名　場所:松原第 3 中学校
12 月 11 日　松原ボランティア祭りパネル出店
場所:松原ゆめニティ

2017 年
1 月 16 日　国際協力＆異文化交流パーティ in 松原
場所:インドカレー「プジャ」
1 月 22 日　国際協力＆異文化交流パーティ in 松原参加:120 名
場所:松原ゆめニティプラザ
2 月 6 日　道明寺ウォーカソン＆天満宮梅園　参加:6 名　場所:古市古墳群道明寺周辺

【富田林】沖田哲男、沖田耕一、真嶋克成

2016 年
10 月 29 日　懇親会＆チャリティテニス会　参加:21 名
場所:富田林藤沢台

2017 年
1 月 14 日　チャリティ金剛山登山　参加:7 名
場所:金剛山
2 月 21 日　地区会 Map カフェ訪問　参加:3 名
場所:Map カフェ
3 月 4 日　4 月 29 日イベント打合せ　参加:3 名
場所:JAFS
3 月 12 日　4 月 29 日イベント打合せ　参加:8 名
場所:Map カフェ

（7）第５エリア

【京都・宇治・野洲・八幡】菅洋子、高田晃宏、柿木良昭、櫻屋敷寛子、杉林則子、田中紀代三、深田陽一、福川粛、

4 月 7 日　京都地区会
場所:京都
5 月 3 日　熊本地震被災者支援街頭募金
場所:京都駅前
5 月 28 日　京都ぞうすいの会
場所:京都府国際交流センター
6 月 17 日　京都地区会
場所:京都
7 月 7 日～10 日　フィリピン・スタディーツアー
場所:フィリピン
7 月 16 日　京都チャリティパーティ
場所:京都教会
7 月 29 日　京都地区会
場所:京都
9 月 1 日　京都地区会
場所:京都
9 月 10 日　国際協力ステーション 2015 参加・展示
場所:JR 京都駅 2F
9 月 12 日　チャリコンの会場下見・打ち合わせ
10 月 6 日　京都地区会
場所:京都
11 月 7 日　京都地区会
場所:京都
11 月 19 日　竹中真チャリティピアノコンサート
場所:新島会館
12 月 10 日　第 1 回アジアンチャリティフェスティバル参加
場所:金光教玉水記念館
12 月 14 日　京都地区会
場所京都:
1 月 28 日　京都地区新年会（鍋パーティ）
場所:洛西教会

（8）第６エリア

【西宮】岡田昂、平山隆史、小谷牧子、齋藤公江、岩﨑準一

4 月 9 日　竹中真チャリティージャズピアノコンサート
参加:110 名
場所:西宮中央教会
4 月 29 日　活動パネル展示とバザー参加
場所:西宮中央教会　ふれあいマーケット
7 月 16 日　そうすいの会　タイ編　参加:24 名
ゲストスピーカー　三阪パニダさん
場所:西宮市立中央公民館
11 月 5 日　Asian Party　in　西宮　2016　参加:40 名
場所:西宮市立中央公民館
2017 年　西宮国際交流デーに参加
2 月 4 日　活動パネル展示、JAFS物品等販売
場所:西宮フレンテ
3 月 8 日～13 日　活動パネル展示
場所:西宮市国際交流協会ロビー
（西宮フレンテ）
3 月 11 日　瀬田敦子チャリティーピアノコンサート （110 名） 場所:カトリック夙川教会
3 月 25 日　ふれあいアフタヌーンティーの会

参加:21 名 場所:カトリック夙川教会
地区ミーティング 計 8 回
4 月 24 日、6 月 12 日
場所:西宮市立中央公民館
8 月 28 日、9 月 18 日、10 月 9 日、22 日、
1 月 26 日、3 月 18 日
場所:カトリック夙川教会

【神戸】 鈴木誠也
西宮地区の人たちと共にイベントやチャリティコンサートなどに参加した。

【姫路】 森 梢、荒川鉄也、中尾和子
毎年、定例会を毎月第1木曜日 19:00 から、いーぐれ姫路で開催していたが、2016 年度は 4 月、7 月、10 月の 3 回のみとなった 2017 年度は新たな目標に向かって新企画を計画中。

（9）第７エリア

【奈良・生駒・東大阪市・八尾市・新宮市】高以良泰治、渡邉瑠璃子、サマン、東久保勝彦、福岡名津子、山田いづみ、山田穂積、有山加代子、石橋演子、林昭宏、末永雅典、坂上やよひ、南野紀美子、日下千代子、橋本隆、龍野秀二、中西洋

2016 年
4 月 5 日 「桜を愛でる会 」 参加:11 名
場所:東大阪 枚岡神社周辺
5 月 10 日 東大阪ふれあい祭り参加
場所:東大阪市八戸ノ里駅周辺
5 月 18 日 八尾地区立ち上げ交流会
場所:八尾市「味楽」
5 月 24 日 生駒ぞうすいの会 参加:18 名
場所:生駒市たけまるホール
6 月 28 日 第7エリア地区例会 参加:10 名
場所:奈良市中部公民館
7月 5 日 生駒ぞうすいの会 参加:11 名
場所:生駒市たけまるホール
7 月 28 日 第 7 エリア地区例会 参加:9 名
場所:奈良市中部公民館
8 月 6 日 生駒どんどこ祭り パネル展示＆出店
場所:生駒健民グランド
9 月 6 日 生駒ぞうすいの会 参加:14 名
場所:生駒たけまるホール
9 月 6 日 地区例会 参加:12 名
場所:生駒市「セッション」
10 月 11 日 アジアンキッチン 参加:11 名
場所:ハンターナ
11 月 7 日 生駒ぞうすいの会 参加:16 名
場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
12 月 1 日 秋のぼたん鍋 参加:10 名
場所:東久保会員宅
12 月 10 日 第 1 回アジアンチャリティフェスティバル参加
場所:金光教玉水教会
12 月 19 日 第7エリア地区例会 参加:12 名
場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
2017 年
1 月 10 日 生駒ぞうすいの会 参加:9 名
場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
1 月 30 日 第 2 回チャリティーライブ生駒 実行委員会
参加 11:名
場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
2 月 11 日 竹送りウォーカソン 参加:8 名
場所:奈良市二月堂
2 月 16 日 第 2 回チャリティーライブ生駒 実行委員会
参加:10 名
場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
3 月 5 日 第 2 回チャリティーライブ生駒 参加:225 名
場所:生駒市セイセイビル ホール
3 月 25 日 生駒ぞうすいの会＆第7エリア地区例会
参加:9 名
場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
毎月第 2 第 4 金曜日 アイビー歌声サロン 場所:生駒たけまるホール
毎月 1 回 水曜日 E.R.I.歌声サロン 場所:JAFS 生駒センターギャラリーE.R.I
毎月不定期土曜日 ウチタネ歌声サロン 場所:うちたね

（１０）第８エリア

【堺市・高石市・田辺市】幾谷眞規子、久保幸子、佐藤満昭、小森茂之

1 月 2 日～3 日 家原寺 新年街頭募金活動
場所:家原寺
1 月 8 日～25 日 第 18 回新春チャリティ小品展支援
ネパール井戸建設他 2 項目支援
場所ギャラリーいろはに
1 月 9 日～11 日 堺山之口商店街バザー
年末募金支援 場所:えびす神社
1 月 14 日 第 8 エリア会員懇話会
局長を囲む座談会、活動報告 参加:10 名
場所:ギャラリーいろはに第 2 展示室
懇親会 参加:7 名 場所:レストランさと

（１１）第９、１０エリア

【関東活動委員会（首都圏）】石田雅昭、岩田芳晴、川崎隆二、小島学、高岸泰子、森山涼子、原 京、端無勝、佐藤理香、武田明沙香、井坂勝則、菊池美智子、河合典子、山本隆、長谷川雅子

モンゴルウランバートル市郊外の人口密集地ゲル地区、そこに住む低所得層の子どもたちのための保育園設立に必要な教材・備品・部屋改築などの支援のために、イベントを通して資金集めを行うとともに、JAFS の広報や会員親睦なども積極的に行った。

2016 年
5 月 29 日 東京府中教会 ぞうすいの会
場所:府中市府中教会
JAFS 創始者、村上公彦事務局長による「国際協力と市民活動」と題する講演の後、雑炊を戴きながらの懇話会を行い、JAFS 関東の活動について紹介しました。約 40 名参加。
6 月 4 日 築地・佃島・月島チャリティウォーク
場所:築地本願寺、築地場外市場、波除稲荷、かちどき橋資料館、タイムドーム明石等。お天気にも恵まれ、内モンゴル出身の親子、日本モンゴル協会板橋部会スタッフの方含む一般参加の方 5 名にご参加いただき、総勢 14 名で和やかにウォークを楽しみました。終了後月島で、もんじゃを食べながらの懇親

10 月 1 日～2 日　グローバルフェスタ参加
場所：お台場・センタープロムナード公園
飲食ブースでは、ベトナム麺の販売、展示ブースでは、JAFS の活動紹介、水汲み体験、アジアグッズ販売を行いました。メッセージカードに記入くださった方を JAFS の Facebook に写真掲載する試みも行いました。2 日間で 5 人のボランティアのサポートをいただきました。

2017 年
1 月 28 日　JAFS 関東活動委員会＆懇親会
場所：新宿区西早稲田一般財団法人 CSO ネットワーク会議室
ゲストスピーカーとして、JAFS がパキスタン地震の支援に入った際、日本語の通訳としてお手伝いくださったパキスタンのシェールさんが参加くださりお話を聞きました。2016 年度決算報告と、4 月のチャリティコンサートの相談も行いました。8 名参加。

4 月 1 日　竹中真 CHARITY JAZZ PIANO CONCERT
場所：日本基督教団 久我山教会
日本を代表するジャズピアニスト竹中真さんが、春の歌から、クラッシック、賛美歌、日本の歌など幅広いレパートリーの絶妙な演奏と軽妙なトークを繰り広げてくださいました。後半は、人気女優・甲斐まり恵さんがサプライズゲストとしてジャズシンガーぶりを披露してくれました。来場者 50 名以上。

●広報活動報告
JAFS 関東ブログを管理運営。イベント告知や活動状況を発信。
投稿記事数：年間 10 件。
アクセス数：3,135 件/年、訪問ユーザ数：2,418 人/年。
ページビュー:9,715 回/年。

JAFS Facebook ページに、年間を通じ随時活動状況を発信。グローバルフェスタ・ブース訪問者との交流の場として Facebook のイベントページを活用。Facebook での交流の場「JAFS 活動連絡室」を運営。Twitter フォロワー数 519。

３．広報

（１）アジアネット

124 号から始めた自主編集を継続し、アジア各地で様々な支援活動を展開している本会の事業を、年4回発行の会報「アジアネット」誌面で紹介した。会員や寄付者などの支援者に「アジアネット」を送付するとともに、新たに本会を知る人を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなどの公開スペースに向けても、閲覧用に 127 号より送付を始めた。
本会のキャッチコピーを 2017 年 1 月より、従来の「渇くアジアと世界に水を！」から「なくそう貧困。命の水を！」に変更した。アジアネットの表紙も 128 号から変更した。

《アジアネット発行実績：
126・127 号 5,000 部、128・129 号 5,500 部》

◆126 号 2016 年 7 月発行
- 表紙写真 熊本地震1か月後の益城町にて
- 巻頭言 なくそう貧困 さざれ石に思う
- 緊急報告 熊本地震「創造的復興を支援しよう」
- ネパール大地震から1年
- 2015 年の活動報告／ 2016 年の実施予定
  水、貧困対策、子ども、国際交流、サイクル・エイド、環境、罹災者支援、国内での普及啓発
- 2016 年度 社員総会報告
- 井戸寄贈報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

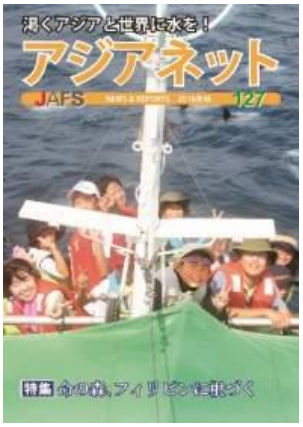
◆127 号 2016 年 10 月発行
- 表紙写真 土と水と緑の学校でのホエールウォッチング
- 巻頭言 名誉領事拝命し半カンボジア人
- 特集 命の森、フィリピンに根づく
  5 年で 10 万本植林計画
  京都暁星高校の交流 13 年
- 海外からの報告
  ボカシ・ボールで驚きの水浄化／AFS奨学生、今年も4人が修了／性的虐待の気づきプログラム／モンゴル首都の人口密集地域に保育園 ほか
- ネパール大地震から1年半
- プロジェクト評価③ ネパール
- フィリピン・スタディーツアー
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 井戸寄贈報告
- 熊本地震から5か月、避難所は今・・・
- JAFSプラザ 国内の活動
  土と水と緑の学校、各地からの報告
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

◆128 号 2017 年 1 月発行
- 表紙写真 インド、マイソール市でのダサラ祭のパレード
- 巻頭言 アジアと大阪「アジアの首都」
- 特集 国際セミナーを開いたインドから
  回復力ある地域と安全目指し宣言
  AYS の若者ら、リーダー像を語る
  根付いた支援、進む自立
  優美な彫刻群／ダサラ祭見聞記
- 海外からの報告
  水耕栽培で台風被災者の所得回復
  インド、スラム街での教育
- パンダン水道完成 20 周年
- バングラデシュ、3850 万人が貧しい国
- 2016 年度からの新規プロジェクト
- 井戸寄贈報告
- 熊本地震から8カ月
- JAFS プラザ 国内の活動
  第1回アジアン チャリティフェスティバル他、各地でチャリティの催し
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

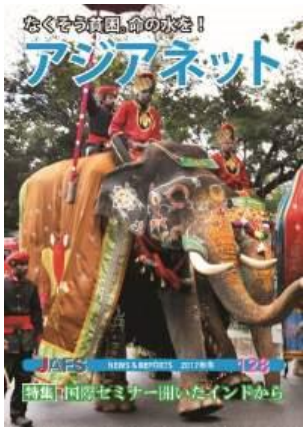
◆129 号 2017 年 4 月発行

- 表紙写真　開校 20 周年の日印友好学園コスモニケタンの生徒たち
- 巻頭言　水のありがたさ知って井戸寄贈
- 特集　日印友好学園コスモニケタン 20 周年
  学びの平等を目指して歩む
  厳かに式典―現地レポート
  里子・キラン君の家庭を訪問
- ネパール大地震から2年
- フィリピン台風被災地に緊急支援
- 海外からの報告
  スリランカ／中国／インド
- SDGs―JAFS の目指す方向と一致
- 井戸寄贈報告
- 熊本地震から1年
- JAFS プラザ　国内の活動
  クリスマスプレゼントで心の交流 15 年／雪の金剛山を行く／助産婦半世紀の軌跡を講演 ほか
- 遺贈・遺産相続による寄付について
- 新・The 社会貢献　法人紹介
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

第 126 号



第 127 号



第 128 号

第 129 号

（２）ホームページ／フェイスブック

本会のイベントやニュースなどを随時更新した。ホームページについては、各ページの具体的内容が把握しやすく、また検索語にヒットしやすいことを狙い、各ページタイトルを修正した。
＜ホームページ＞　http://jafs.or.jp
＜フェイスブック＞ http://www.facebook.com/JAFS.NGO

４．　プロジェクト支援（ファミリーグループ）

（１）ぞうすいの会

（山崎桃、坂本由子）

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康を見直すとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。毎月１回（年間 11 回※8月休み）開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジュエクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。継続することの大切さをあらためて実感でき、今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

4 月 12 日	340 回「スリランカスタディツアー報告」 渡辺治彦　参加 16 名
5 月 10 日	341 回「熊本地震被災者支援活動報告」 田中壽美子、横山浩平　参加 17 名
6 月 7 日	342 回「ネパール中部地震支援活動報告」 熱田典子　参加 20 名
7 月 12 日	343 回「壁の話」 横山浩平　参加 18 名
9 月 13 日	344 回「フィリピン・マングローブの植林」 平原榮子　参加 22 名
10 月 18 日	345 回「熊本地震被災者支援活動報告」 山竹継男　参加 14 名
11 月 8 日	346 回「インド活動視察報告」 永井博記　参加 21 名
12 月 13 日	347 回「フィリピン・パンダン国際親善スタディツアー報告」 村上　公彦　参加 12 名
1 月 17 日	348 回「ネパール地震支援　1 年半後の活動報告」 熱田典子　参加 20 名
2 月 14 日	349 回「Introduction to Pakistan」 シェール A ジャン　参加 13 名
3 月 7 日	350 回「瀬田敦子と生徒たち」 瀬田敦子　参加 33 名

（２）アジア井戸ばたサロン

（代表　山﨑　桃）

『1990年「WINA2000」アジア国際女性会議』が開催された。これを機にアジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動をはじめた。小さな力でも積み重ねると大きな成果を生み出すということを合い言葉に、活動を続けている。サロンに集まるメンバーも充実し、本年度も一歩一歩着実に歩み、手作り工芸品の製作など、おおいに成果をあげた。作品の種類や点数も増加したので、各種イベントなどでの利用を願っているが、積極的な申し出もふえ、各地に作品を広めていただいていることに感謝している。目的達成のために1992年4月に設立された「水がめ基金」から、本年度も、「JAFS里親の会」に例年どおり支援を果たした。

＜活動＞
●ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
毎週火曜日午後1時～3時
・箸袋、季節のカード、香袋など。

●各種文化交流会
1 2016年4月5日
・見学会:「剱箭神社」見学。
資料・お話し 澤村 和子氏
2 2016年5月4日
・見学会:「ピカソ展」ハルカス美術館
3 2016年7月18日
・作品出品:「堺市ギターサマーコンサート」
4 2016年11月29日
・見学会:「當麻寺」見学。
案内・森 わかこ氏

（３）アジア国際夏期学校（AISS）

（代表 桑田隆弘）

小学生から大人までを対象にした海外ワークキャンプ、アジア国際夏期学校(Asia International Summer School : AISS)の参加者が帰国後も、国内で自主活動を続けている。2016年8月、9月は、日印友好学園コスモニケタンの体育道具の寄贈の報告。2017年2月AISS で大変お世話になった中島先生宅へ弔問した。毎年夏、AISS 実施前に事前キャンプとして、中島先生の自然楽舎にて合宿をさせていただき、AISS 参加の準備を行った。

（４）スリランカ・サルボダヤ友の会

（代表 船戸康夫）

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を拡げることを目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のためバザー等に出展し、様々なボランティア活動をおこなっている。今年度は農村運開発活動とともに井戸1基の建設を支援した。

2016年

4月16日	総会 場所:JAFS 会議室
4月29日	春の JAFS チャリティバザール出展 場所:大東市
5月8日	第39回東大阪ふれあい祭り出展 場所:東大阪市
6月25日	第22回スリランカ講座 於:ワーサナ 『アーユルヴェーダーに学ぶ健康法 元気になるスパイスで暑い夏を乗り切ろう』 講師:ラックスマン フェルナンド氏
8月27,28日	泉大津イベント 模擬店参加
9月3,10,11日	場所:泉大津フェニックス
10月23日	第42回四條畷市民の集い 出展 場所:四條畷市
12月10日	アジアンチャリティフェスティバル 出展 場所:玉水教会
1月10日	『村上局長と語る新年会』 於:ハンターナ
11月7日	第23回スリランカ講座 於:JAFS 会議室 『スリランカの年中行事』 ゲスト: ドゥルニ・ディルシャーラ・ジャヤスーリヤ氏
3月11日	第24回スリランカ講座 スリランカ料理教室 場所:クレオ大阪西 ゲスト:ラックスマン フェルナンド氏

（５）日印友好学園支援会

（支援会会長 柏木道子）支援会メンバー:10名

2016年度も日印友好学園コスモニケタンの運営を引き続き支援したと同時に運営の自立を目指して、学校の収入源となる設備の拡充に協力した。机、イスの導入に加えて、学生寮に初めて二段ベッドを導入し、より遠方の生徒を受け入れられるようにした。スマートクラス(化学の実験などを映像化し、理解を深めるためのクラスで、インドの農村の多くの学校では化学実験室が完備されておらず、またその設置費用に莫大な費用がかかるために、スマートクラスは、導入コストや方法が簡単で、農村には適しているとされている)を導入した。また、生徒の学力ギャップを緩和するために、成績が悪化している生徒や転入生のためにサマーコースを開講した。

コスモニケタン学園は生徒の頑張りと先生の長年の行き届いた指導により、後期中等教育修了試験(SSLC)においては、ビジャヤプーラ地区では毎年トップの成績を取っていたが、テストの方式が変更された上に、テレビの取材などにより、生徒が極端に緊張してしまったために、今年は合格者が84.6%(毎年100%)と減少した。導入した機材やサマーコースなどの成果は、2017年度にて反映されるため、今後の成績の向上に期待する。運営の自立を目指して、2016年度は、学費、サマーコース、スマートクラス、学生寮ベッドの導入を行ったが、これらの成果が明らかになるのは、2017年度からになるため、今後の収入状況を見ながら、運営費への支出と学校の教育環境の改善などへの支出へと方向性を変えていくこととする。コスモニケタンも20周年を迎え、貧困層の子どもたちの学校ではあるが、他所得層の子どもたちも、先生の指導方法、設備などから集まるようになり、学費も若干であるがとれるようになった。しかしながら、収入源を増やし、運営を安定させていくためには、遠方の子どもたちが通えるようなバス、英語学校などの導入が必要であり、2017年度英語学校の開校を目指している。

2016年
10月11日～10月18日 コスモニケタン視察
2017年
2月19日～2月26日 コスモニケタン20周年記念式典参加

2016年6月、2017年3月、 支援会開催(2回開催)

（６）ＪＡＦＳネパールへのかけ橋

（代表 岡田光浩）

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とする。活動のテーマは、「ネパールの子供たちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主活動を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。また昨年4月25日に発生したネパール大地震で被災した子供たちのために文房具などの支援協力の呼びかけを引き続き実施。今年度のプロジェクト支援は、ノールパラシィ郡ピトゥリ村の小学校3校の新校舎の建設費用の補填協力を行った。特にその費用は今年から政府が義務づけた天井設置のために活用された。また、継続的支援として里親の会を通して、ピトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施している。

4月2日	例会・花見
5月10日～	AFS-Nepal Om 夫妻来日に対するサポート
5月18日～19日	Om夫妻を囲んでの懇親会と例会
7月9日	例会

8 月 19 日　枚方祭り準備
8 月 20 日　枚方祭りチャリティ参加
8 月 21 日　枚方祭りチャリティ参加
9 月 22 日　例会
10 月 8 日　枚方 NPO フェスタ参加
10 月 14 日　枚方多文化フェスティバル準備
10 月 15 日　枚方多文化フェスティバル参加
10 月 23 日　JAFS バザー出店
11 月 2 日　東大阪国際交流フェスティバル準備
11 月 3 日　東大阪国際交流フェスティバル参加
11 月 5 日　寝屋川十字の園 40 周年記念イベント協力
11 月 12 日　例会
11 月 26 日　大谷タカコ先生世界平和賞受賞記念講演会　協力参加
11 月 29 日　寝屋川多文化フェスティバル準備
12 月 4 日　寝屋川多文化フェスティバルチャリティ出店
12 月 10 日　JAFS the Part 協力参加
12 月 17 日　例会
1 月 14 日　例会・新年会
2 月 4 日　例会
3 月 11 日　例会

（7）ＰＡＯＮ

（代表　谷阪洋子）

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。飲食店出店や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAON としてJAFS の海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。今までにスリランカ、ラオス、ミャンマー、カンボジア、バングラデシュ、フィリピンへ 6 基の井戸を贈ることができた。

8 月 27,28 日　泉大津イベント模擬店参加
9 月 3,10,11 日　於：泉大津フェニックス

（8）ＪＡＦＳオアシス会（中国教育医療支援会）

（代表　青木美千代）

オアシス会はアジアの中に“理解と協力と連帯”の輪を拡げるという JAFS 基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。

シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じることで、私達の日常に根付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にバトンタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。

2016 年
6 月 8 日　活動相談会　場所：パザパ
8 月 16 日　アジア家庭料理教室　場所：クレオ大阪西
～中国新疆ウイグル自治区編～協力
8 月 27,28 日　泉大津イベント　模擬店参加
9 月 3,10,11 日　場所：泉大津フェニックス
1 月 21 日　ウライム家族来日歓迎会・交流会
於：ムカーム

（9）アジアネットワーク奨学会

（代表　古賀　旭）

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金（奨学金等）を支給するための支援会である。2016 年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）の地域開発コースにインド 1 名、ネパール 1 名、フィリピン 2 名に奨学を行った。

（１０）ネパール子ども夢基金

ネパールのこどもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通した成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、ネパールにて 12 月末実施の子ども環境セミナーを実施の支援を行った。

（１１）ネパール地域医療支援会

（担当理事：小原純子副会長）

ネパールの地域医療向上及び母子保健向上の支援活動を行ってきたスクテ支援会とチョータラ支援会を統合。ネパール農村エリアの医療向上プロジェクトをサポートする支援会。

今年度は、この支援会に深く関わってくださっている大谷タカコ助産師の世界平和賞受賞の講演会を行ったことをきっかけで支援者の拡大を図った。また支援費収集法として、支援金募集以外にプルトップ回収を行っている。また山間地の女性たちの生理用布パッドを手作りで作る活動をはじめ、配布を始めた。集められた支援金は、女性への性教育推進のために資金として来年度活用するよう準備中である。

（１２）アジア未来塾

アジアと世界の将来が、持続可能な文明であるための文明の原理を、「振り返れば未来」の立場で、アジア文明の中に求めるための勉強会。日本在住のアジアの方々を講師に招き 2017 年に入り活動を再開。

第一回　1 月 22 日（通算第 40 回）
留学生に聞く（ベトナム編）　9 名
講師：ダン・フォク・ハウ（日本語センター語学留学生）
第二回　2 月 26 日（通算第 41 回）
留学生に聞く（カンボジア編）　10 名
講師：タン・ワンリック
（大阪情報コンピューター専門学校留学生）
第三回 3 月 26 日（通算第 42 回）
インドネシアの過去・現在・未来　8 名
講師：ヤゴウ・スリウィチャヒヨ（芦屋市在住）

（１３）サイクル・エイド支援会

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与したり、環境にやさしい貴重な移動手段として、地域の福祉環境改善のために再生自転車を有効利用している。自転車を通じた国際交流の絆を深める

目的を進めていくためにサイクル・エイド支援会を設立。様々なイベントでの広報活動や自転車を輸送するための協力を募っている。

（１４）JAFS バーラト会
（代表　有山京子）

インドを知り、インドの関わる人たちと交流を通して、本会のインドのプロジェクトを応援しようと始まった自主活動グループ。2016 年度、下記の通りの例会を行ない、インド、ナグプール県の「チャイルドアカデミー」に寄付をした。

例会：　4 月 19 日、5 月 17 日、7 月 19 日、9 月 20 日、
10 月 18 日、12 月 20 日、1 月 17 日、2 月 21 日
3 月 21 日 のべ 95 名が参加

（１５）ＪＡＦＳ歌声サロン
（代表　有山京子）

ピアニスト有山京子の伴奏をバックに、好きな歌を歌い、日頃のストレスを発散しながら、国際貢献をする自主活動グループ。2016 年度から、活動を開始し、参加費の一部をインド子ども教育支援（インド、ナグプール県のチャイルドアカデミー）、アジアフレンドシップ夢基金へ寄付を行なっています。

例会：　4 月 12 日、5 月 10 日、6 月 17 日、7 月 12 日、
9 月 13 日、10 月 11 日、11 月 7 日、12 月 13 日、
1 月 10 日、2 月 14 日、3 月 14 日　のべ 63 名が参加

（１６）英会話クラブ
（代表　有山京子）

2016 年度より英会話クラブを開設。初心者から上級者までのクラスがあります。初心者には日本人のしの先生やインド人のミーナ先生がおられます。しの先生は状況に応じて英語を使い分ける方法を、ミーナ先生は初中級者にはテキストブックを使って親切に指導。上級者には日常英会話からビジネス英会話まで、また個人レッスンもあります。会費の一部はインド子ども教育支援に寄付します。

例会：　10 月 27 日、11 月 4 日、12 月 22 日、1 月 5 日、
1 月 19 日、2 月 9 日、2 月 16 日、3 月 2 日、
3 月 8 日、3 月 14 日、3 月 21 日、3 月 28 日
のべ 69 名が参加

（１７）旅人（たびんちゅ）
（代表　有山京子）

旅の好きなものが集まり、折々の季節を楽しみながらチャリティ企画で旅をしています。会費の一部はアジアフレンドシップ夢基金に寄付しました。

2016 年
5 月 10 日　　白馬　塩の道祭り　　参加:8 名
場所:長野県小谷村、白馬村
2017 年
2 月 10 日　　白馬スキーツアー　参加:11 名
～13 日　　場所:長野県白馬村
2 月 23 日　　牡蠣ツアー　参加 6 名
場所:岡山県日生漁港

５．　関連市民活動

（１）関西ナショナル・トラスト協会
（代表　山竹　継男）

事業期間:2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日
事業の内容:美山楽舎を中心とした活動を行った。美山楽舎の維持管理費が収入を上回り今後に課題を残す形となった。水道光熱費・保険料・修繕維持費の合算が 150,804 円と保有財産活用料 47,000 円を大きく上回っている。地元との交流も年ごとに深まりつつあるが、JAFS の活動も含め今後なお一層、協調・交流を深めていかなければならない。

(1)自然環境保全事業
内容:残していくべき自然（京都府南丹市美山町の「美山楽舎」の活用や新淀川河川敷を実際に訪れ市民レベルでの自然環境保全を実施した。
●5 月 29 日:美山紅芍薬観察会
●7 月 3 日:第 13 回べっ甲シジミ採りとEM 菌投入
●3 月 25 日～28 日:第 5 回美山土と水と緑の自然学校開催

(2)歴史的環境の保全
内容:大阪大空襲にも焼け残った奇跡の町、昭和が色濃く残る空堀商店街を見学し、歴史的建造物や街並み保存を学んだ。
●10 月 21 日:空堀商店街界隈を探訪した。

(3)保有・管理財産活用事業
内容:京都府南丹市に保有する「美山楽舎」の土地・建物を一般に有料で貸し出し保存すべき歴史的建物（古民家）に触れることによりナショナル・トラスト運動に理解を深めて頂いた。

(4)農林漁業生産支援事業
内容:農村地域の行事に積極的に参加し、地元住民との交流を図り、農業生産の実態や農業生産支援について考える機会を得た。

●10 月 29 日:奥庵堂祭りに参加
●11 月 3 日:美山ワンディマーチに参加
●2 月 5 日:美山神谷雪祭り協賛

（２）グリーンベイ OSAKA
（代表　萩尾千里）

堺第７－３区共生の森において、以下の通り、「グリーンベイ森を育てる会（草刈り会)」と「第 9 回グリーンベイ植樹会」を開催しました。

(1) グリーンベイ森を育てる会（草刈り会）
日　時:5 月 29 日(日)9 時 30 分から 13 時 30 分まで
天　気:好天　　参加人数:100 名

(2)第 9 回グリーンベイ植樹会
日　時:11 月 27 日(日)9 時 30 分から 13 時 30 分まで
天　気:雨天　　参加人数:65 名
植付面積:1,300 ㎡
植樹本数:728 本(15 種)

植樹種:
(落葉樹)ケヤキ、ムクノキ、ヤマザクラ、エノキ、クヌギ、コナラ、エゴノキ、アキ、グミ
(常緑樹)ヤマモモ、スダジイ、クロマツ、クスノキ、ナワシログミ、ウバメガシ

(3)社団法人国土緑化推進機構からの助成金
グリーンベイ大阪のグリーンベイ植樹会の「森を育てる活動」に対して、社団法人国土緑化推進機構が助成金 1,880,000円を交付した。

(3) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表:萩尾千里、大阪グループ代表幹事:橋口高明)

JAFSの国際協力フィードバック事業の一環として、JAFS会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬されかつ信頼される国(社会)づくり」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的市民の会を目指している。 発足は2006年12月。

<フォーラム活動(会員議会/政策提言>
1. 奉仕活動(各種ボランティア活動へ参画)
2. 自己啓発活動(自己研修・鍛錬など)
3. 健康増進活動
定例会:毎月第一日曜日 午後2:00〜5:00
場 所:JAFS会議室
(都合により日程、場所に変更有)

<2016年定例会>
4月24日 第78回 会場JAFS 参加:11名
『何故、今憲法改正なのか』(内ゲスト2名)
5月22日 第79回 会場JAFS 参加:6名
『日本憲法突っ込みどころ満載の諸事情』
6月19日 第80回 会場JAFS 参加:7名
『もう、あきらめた憲法改正と、どうでもよい参議院選挙』
7月31日 第81回 会場JAFS 参加:8名
『自民党は所詮、宦官、ふぬけ』
9月11日 第82回 会場JAFS 参加:9名
『憲法改正の方向』を考える
〜自民党の憲法改正原案をもとに〜
10月16日 第83回 会場JAFS 参加:6名
『憲法改正の方向』を考える
〜自民党の憲法改正原案をもとに〜
11月27日 第84回 会場JAFS 参加:8名
復習『憲法改正の方向』を考える
〜自民党の憲法改正原案をもとに〜
12月25日 第85回 会場JAFS 参加:8名
『憲法改正 考察その3』
〜自民党の憲法改正原案をもとに〜
<2017年定例会>
2月19日 第86回 会場JAFS 参加:7名
『時事放談』『トランプ大統領のおお洞吹き』
3月20日 第87回 会場JAFS 参加:6名
『時事放談』
政策の行方(浮き沈みする憲法改正論議)

JAFS チャリティバザール恒例の子どもたちによる沖縄舞踊

JAFS 初の試みアジアンチャリティパーティ

JAFS 法人賛助会主催 カンボジアセミナー

第 1 エリア中山寺子ども祭りではヨーヨー釣りが大人気

南河内エリアウォーカソン

JAFS 関東参加のグローバルフェスタ名物　ベトナム麺

第 3 エリア恒例のおもしろツアー（電車で移動中）

第 5 エリア主催のジャズピアニスト竹中真氏のチャリティコンサート

第 6 エリア新年会にて

生駒ぞうすいの会にて

緑とふれあう会収穫祭

枚方 NPO フェスタ

ネパールへのかけ橋

大谷タカコ先生「平和大賞受賞」記念講演会

大阪JCのイベントにてJAFS広報活動

Ⅳ－Ｂ．環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で巡り、自然体験をした。本年度も引き続き、新宮市からの協力を得て、東日本大震災の被災地である宮城県名取市からの子どもたち10名が参加しました。ボランティアを含む合計98名が自然豊かな新宮市高田地区に集い、本プログラムを実施した。

開催趣旨
大自然の中での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営みや自然を大切にすることを学び、次代を担う世代として、より豊かな心を持たせることを目的とする。

行事名　第 33 回土と水と緑の学校
実施期間　2016 年 8 月 7 日（日）～12 日（金）の 5 泊 6 日
（本部開設期間 8 月 5 日（金）～8 月 13 日（土））
実施場所　和歌山県新宮市　高田地区一帯
および、那智勝浦宇久井
本部：高田公民館
主催者名　新宮市
公益社団法人 アジア協会アジア友の会（JAFS）
一般財団法人 新熊野体験研修協会
協力者名　近畿労働金庫、大阪帝塚山ライオンズクラブ
後援者名　大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
和歌山県教育委員会、新宮市教育委員会
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 読売光と愛の事業団大阪支部
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

人数　参加者数(小学 3 年～中学 3 年)　98 名
（大阪側 29 名・新宮側 69 名（名取市より参加 10 名を含む））
ジュニアリーダー数(高校生)　3 名
リーダー数(大学生・社会人)　15 名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数　42 名
講師数　9 名

土の日
午前中は、栄養度の高い腐葉土を山から摂り、その中に住む、昆虫やその他の微生物の観察。色やにおいなど様々な特面から土について学習した。午後からは、班ごとでクラフトや、自然体験ゲーム、川遊び、成果発表の準備などを行った。

水の日
午前中は、水中にすむ生物の観察から水の大切さを学んだ。何十種類にもおよぶ川の生き物の採集し、それらの特性、特徴を観察した。午後からは、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じた。

緑の日
午前中は、緑の働きや人々とのかかわりを、あずま屋から一ノ滝まで歩くことを通した学んだ。ハイキングの中で、草木や熊野地方特有の植物に触れ、緑の役割を学んだ。午後からは、テントでの宿泊を体験し、かまどでの火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験した。

海の日
午前中は、海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察した。海での磯観察では多種多様な生物に触れた。
午後からは、船でホエール・ウォッチングに出かけ、クジラの生態を学び、地域での取り組みについて考えた。

心の日
スライド写真を通じて、世界の自然やアジアの国々の生活の様子に思いをはせた。同世代の子どもたちの生活や、アジアにおける水不足の現状、食糧事情、環境などを学んだ。

（２）美山 土と水と緑の自然学校

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。

開催趣旨
「農村と都市の交流」をテーマに、単なる自然体験ではなく、農村に暮らす人々との交流を通して身近にある自然と生活のつながりなどを学ぶことで、自然を大切にする心と仲間を思いやる気持ちを育てる。
。

行事名　第 5 回　美山「土と水と緑の自然学校」
実施期間　2017 年 3 月 25 日（土）～28 日（火）
実施場所　京都府南丹市美山町大内地区
主催者名　公益社団法人アジア協会アジア友の会（JAFS）
共催者名　大内地区農村都市交流実行委員
関西ナショナルトラスト協会
後援　京都新聞
人数　参加者数（小学 3 年生～中学 3 年生）13 名
ジュニアリーダー数（高校生）3 名
リーダー数（大学生・社会人）4 名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数…約 30 名

内容　フォトロゲイニング、白尾山登山、クラフト、大内・荒倉水路探索、キャンプファイア、餅つき、地元の話など。

毎年恒例のプログラムとして定着してきた本プログラムであり、地元の人たちもボランティアとして、プログラムを支え、尽力している。参加者も一定化しており、夏と土と水と緑の学校の友達と再会したい子どもたちが、新宮、大阪、京都から集まり、地元の素材を活かしたプログラムを満喫している。本事業は、4 年目を迎え、本会や美山においても恒例のプログラムとして定着してきた。
これまで、毎年参加してきたタイのメイジョウ大学の学生が来日できなかったことは、農村、都市、国際的交流を目指していた本プ

ログラムとして、またこのような国際的交流を楽しみにしていた地元の人たちにとっても残念なことであった。しかしながら、このプログラムの参加者集めを始め毎年試行錯誤しながらつくってきたことにより、美山においても信頼を得ることができている。

今後は、美山と大阪、新宮、ひいては、タイとの相互交流などを実践し、さらなる交流を深め、都市間だけでなく国際交流にもチャレンジしていきたいと考えている。

また、限界集落の中で、自分たちに何ができ、どうしたらその課題を解消できるかなど、例年にもましてこの問題にチャレンジしていきたいと思う。

最後にタイのメイジョウ大学の学生でこのプログラムを第 1 回から支えてくれた Wiyo Thep 氏が交通事故で志半ばで亡くなった。ここにご冥福をお祈りする。

（３）各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域で行動を）」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFS の海外ネットワーク（インド、カンボジア、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ）を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている（大阪、吹田、寝屋川・枚方）。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

（代表：永井大介）

定例会議　祝日を除く毎週木曜日に実施
活動内容　年間を通して「エコキャンプ」、京都府南丹市美山町にて農業体験を実施、集落支援活動を通じて、青少年環境教育活動及び海外支援活動

活動報告

5 月 28 日～29 日　春のエコキャンプ（箕面市内）実施
8 月 7 日～12 日　第 33 回土と水と緑の学校に参加(新宮市高田)
11 月 3 日　美山ふるさとウォーキングツアーに参加
11 月 12 日～13 日　新宮ウィンターキャンプ（新宮市内）実施
11 月 26 日～27 日　冬のエコキャンプ（箕面市内）実施
2017 年 2 月 4 日　美山「神谷ふるさと雪祭り」参加、協力
3 月 25 日～28 日　第 4 回美山「土と水と緑の自然学校」に参加

◆国際グリーンスカウト吹田◆

（主なメンバー：杉原貴、雨森清忠、服部博、濱野和也、早川直彦、越智久美子）

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっていこうというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001 年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003 年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。2003 年より、毎年 7 月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。2016 年も引き続き、月一回の川清掃、夏のキャンプ、年数回吹田内でキャンプを行った。また、HP を下記に変更した。

https://guwasuto.jimdo.com/

＜糸田川清掃、環境保全活動＞

毎月一回、第一土曜日に 30 分ほど実施。
参加人数は平均 6～8 人。
実施日：　4 月 2 日、5 月 7 日、6 月 4 日、7 月 2 日、8 月 6 日、9 月 3 日、10 月 1 日、11 月 5 日、12 月 3 日、1 月 14 日、2 月 4 日、3 月 4 日

＜無人島キャンプ＞　瀬戸内海の無人島　友が島にて
7 月 16～18 日

＜ぐわすとキャンプ＞
9 月 3 日～9 月 4 日（吹田市自然体験交流センター）
9 月 17 日～19 日（友が島）
12 月 3 日～4 日（吹田市自然体験交流センター）

＜サイクリングツアー＞　淡路島にて
10 月 8 日～10 日

◆国際グリーンスカウト寝屋川・枚方◆

2006 年 11 月に結成。今年度も引き続き第 2 エリア植林活動「北河内緑とふれあう会」に参加。行動を同じくした。

第 33 回土と水と緑の学校の参加者と講師の人たち（閉校式にて）

第 5 回美山　土と水と緑の自然学校（餅つきにて）

Ⅴ．運営管理

Ⅴ－Ａ．社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第 5 回社員総会を下記の通り開催した。定款第 16 条の定めにより萩尾会長が議長となり議事を進行した。現在の社員数 239 名の内、出席社員数 158 名（内書面評決者及び評決委任者 102 名を含む）であり、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日　時：2016 年 6 月 11 日（土）　午後 14 時～15 時 30 分
会　場：大阪科学技術センター　8 階小ホール
議　案：Ⅰ．決議事項
第 1 号議案『定款変更承認』の件
第 2 号議案『役員選任』の件
第 3 号議案『2016 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録承認』の件
Ⅱ．報告事項
① 2015 年度事業報告並びに同附属明細書について
② 2016 年度事業計画書について
③ 2016 年度収支予算書について

上記の決議事項に関しては、異議なく承認された。

Ⅴ－Ｂ．役員一覧

役　職	氏　名	経　歴
会　長	萩尾　千里	大阪国際フォーラム会長
理 事 長	田中　久雄	（株）ＶＥＮＩＳＯＮ　代表取締役
副 会 長	小原　純子	(一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
	湯川　剛	（株）OSG コーポレーション　代表取締役会長・CEO
専務理事 事務局長	村上　公彦	日本基督教団　寝屋川教会　牧師（本会創設者）
常務理事	冨松　英二	元　三菱電機（株）通信機製作所　開発管理担当部長
常任理事	池田　直樹	あすなろ法律事務所　弁護士
	井上　勇一	日本キリスト教団洛南教会　牧師
	上野　孝一	寝屋川十字の園　施設長
	大倉　達也	（株）大倉設計事務所　代表取締役
	沖田　文明	（特活）関西ナショナル・トラスト協会　副代表
	齋藤　公代	元　大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン編集長
	櫻井　紘哉	元　三和銀行管財部長
	西田　貞之	（有）西田興産　代表取締役
	新田　香織	近畿大学総合社会学部　教授
	法花　敏郎	元　朝日ビルディング社長

	吉田　　俊朗	元　ユニチカ（株）監査役
理　　事	熱田　　親憙	元　大阪経済法科大学　地域総合研究所客員教授
	石川　　悦治	石川会計事務所　税理士
	桑村　　壽子	天王寺英数学院　理事長
	坂口　　久代	関西イタリア語文化センター　代表
	篠原　　勝弘	公益財団法人 CIESF 副理事長　元駐カンボジア特命全権大使
	土屋　　菊男	元　関西学院高等部　教論
	寺西　　浩章	（宗）家原寺　住職
	橋口　　高明	（株）エイメックストレイディング　社長
	福澤　　邦治	パナソニックグループ労働組合連合会　副中央執行委員長
	藤原　　正昭	行岡保健衛生学園　顧問
	山田　　英男	大阪カンボジア王国名誉領事館名誉領事、山田不動産(株)代表取締役
	米田　　明正	（株）グローアップ　代表取締役
監　　事	柿島　　裕	元（株）PHP 研究所　直販普及本部参事
	出口　　貴之	（株）宝屋　代表取締役

（２０１７年３月３１日現）

2016 年度理事評議員交流会にて

Ⅴ. 運営管理

本会の事業・活動は、理事会及び各常置委員会によって管理・運営されている。2016 年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

Ⅴ－C. 理事会

(議長:萩尾千里会長)
理事会: 5 月、6 月、9 月、12 月、3 月 (計 5 回開催)
原則として第 4 火曜日に実施。
内、昨年 6 月は役員改選にともなう臨時理事会開催。

Ⅴ－D. 常置委員会

Ⅰ. 公益目的事業Ⅰ 開発支援事業
2016 年度は、開発支援事業の進捗状況の確認、課題提示、報告などを実施。2017 年度新規事業の審議を実施。
委員長:大倉達也理事
副委員長:米田明正理事、
＜事業内容＞
1. 水事業
2. 子ども事業
3. 貧困対策事業
4. 環境事業
5. サイクル・エイド事業
開催日:7 月、8 月、10 月、12 月、1 月、2 月、3 月
計 7 回実施。

Ⅱ. 公益目的事業Ⅱ 国際交流事業
2016 年度は、国際交流事業の進捗状況の確認、報告などを中心に行なった。各事業ごとに実行委員会を持ち、円滑にプログラム運営を行なうことができた。
委員長:西田貞之理事
委 員:坂口久代理事、藤原正昭理事
＜事業内容＞
1. 人材交流・育成事業
2. ネットワーク推進事業
開催日:7 月、9 月、11 月 計 3 回実施

Ⅲ. 公益目的事業Ⅲ 生活支援事業
2016 年度は、熊本地震被災者支援事業、ネパール地震被災者支援、フィリピン台風被災者支援などの決定事項や進捗状況について協議した。
委員長: 小原純子 副会長
副委員長:橋口高明理事
＜事業内容＞
1. 熊本地震被災者支援
2. ネパール地震被災者支援
3. フィリピン台風被災者支援
4. 熊本地震「益城町江藤氏を迎えて」被災者支援報告会の開催
開催日 7 月、8 月、10 月、3 月(計 4 回実施)

Ⅳ. 公益目的事業Ⅳ 国際理解・啓発活動事業
事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。
総括委員長:村上公彦事務局長
＜事業内容＞
1. 会員拡大・地域活動推進委員会(齋藤公代委員長)
エリア幹事、地区世話人さんを中心に開催。
昨年より地域活動推進委員会を開催し、地区世話人と共に活動していく仲間の輪を広げていった。
エリア幹事会:5 月、6 月、7 月、8 月、9 月、10 月、12 月、1 月、2 月、3 月
地域活動推進委員会:4 月、5 月、9 月、10 月、11 月、12 月、2 月

2. 広報企画委員会(法花敏郎委員長)
アジアネット編集を中心に開催。
開催月:4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、2017 年1月、2 月、3 月

3. 事業委員会(沖田文明委員長)
バザー、土と水と緑の学校、フェスティバルを開催
委員会:7 月、9 月、12 月、3 月 計 4 回実施

4. 国際文化交流委員会(新田香織委員長)
アジアを身近に感じ理解し、活動を応援する人々の育成を目指し支援の輪を拡げるを中心に活動。
開催月:7 月、9 月、10 月、12 月、2 月、3 月

5. 全国ネットワーク委員会(井上勇一委員長)
全国の活動拠点作りを目指している。
開催月:5 月、9 月、11 月、2 月

Ⅴ. 法人管理部門
委員長:櫻井紘哉理事

1.	総務担当	櫻井紘哉理事
2.	財務担当	上野孝一理事
3.	法務担当	池田直樹理事
4.	庶務担当委員	吉田俊朗理事
5.	法人賛助会幹事	櫻井紘哉理事
6.	ガバナンス委員	冨松英二常務理事
7.	業務統括・事務局	村上公彦専務理事

開催月:原則として 8 月を除き毎月開催。計 11 回。

Ⅴ－E. 立入検査

移行後、初の内閣府公益認定等委員会による立入検査が 7 月 13 日に実施された。検査は事業の実施状況、財務・会計処理、法人の自治の 3 つの切口で行われた。特に定期提出書類である事業報告の中の会計報告の記入方法についてはいくつかの指導を受け、提出書類の修正を 12 月末までに行った。その他のコメントについては対応策を検討した上で、随時改善を図っていく。

【事業報告の付属明細書】

2016年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34 条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上